

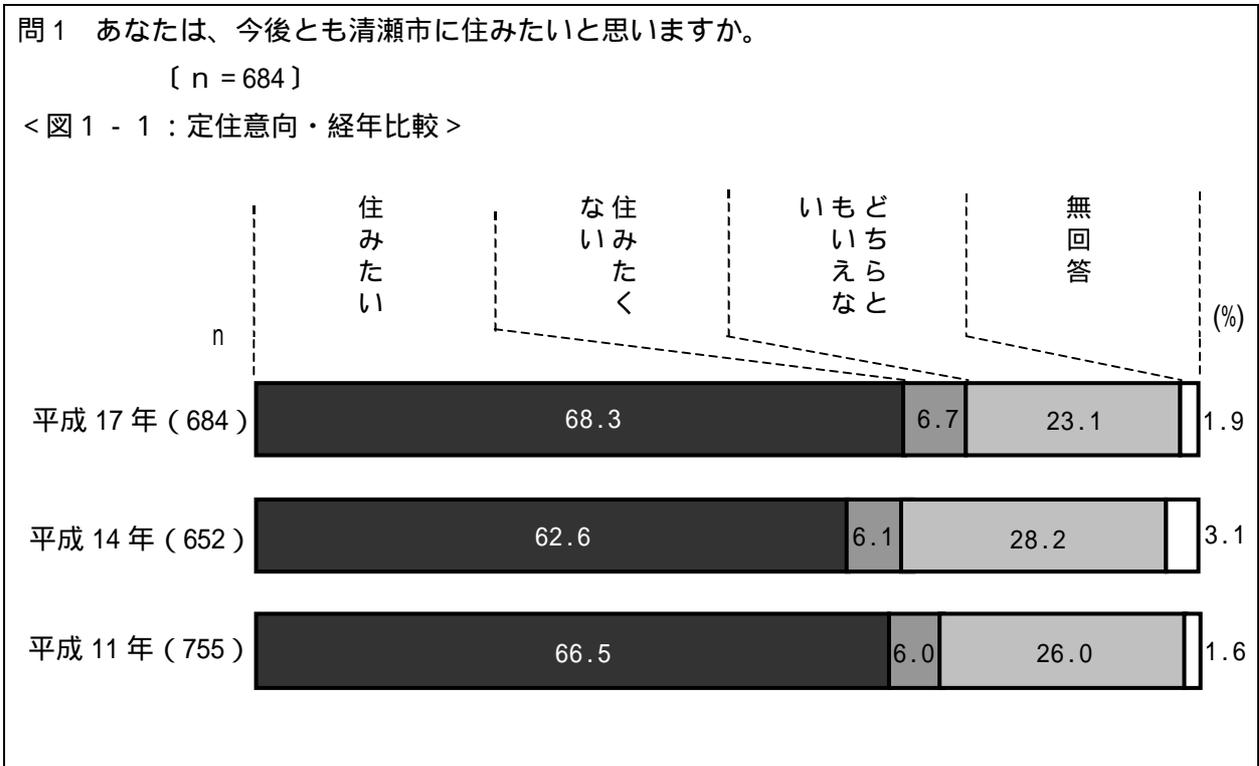
調査結果の分析

調査結果の集計表

調査結果の分析

1 居住継続意思

(1) 定住意向



【全体・経年比較】

全体では、「住みたい」が68.3%と最も多く、「住みたくない」の6.7%を大きく上回る。なお、「どちらともいえない」が23.1%となっている。

前回調査(平成14年)と比較すると、「住みたい」が5.7ポイント増加している。

前々回調査(平成11年)からの経年変化をみると、「住みたい」は65%前後で推移しているといえる。

【性別・年齢別・町名別・居住年数別】

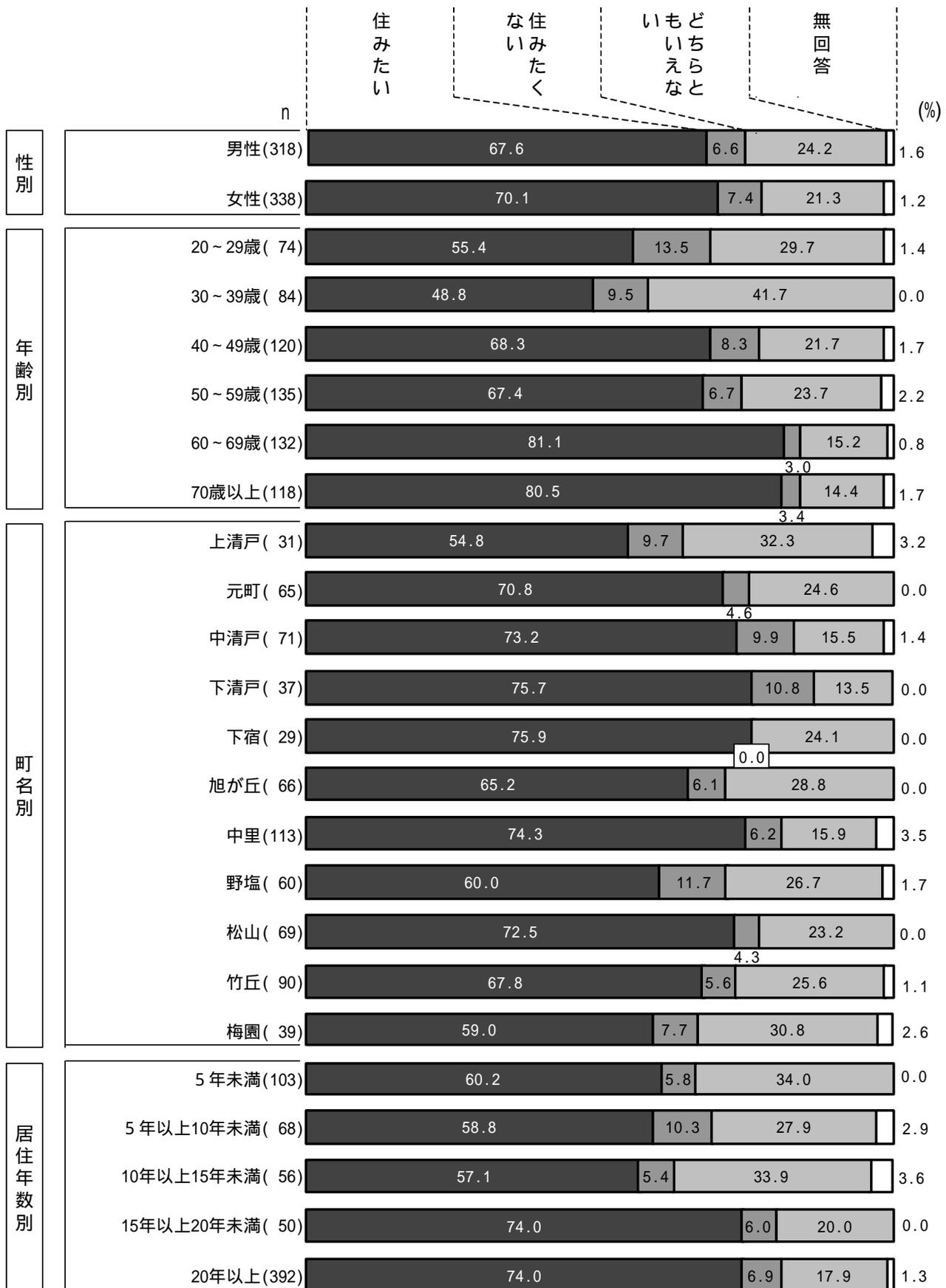
性別では、特に大きな差異はみられない。

年齢別でみると、「住みたい」は60歳代が81.1%と最も高く、次いで70歳以上が80.5%で続いている。他方、「住みたくない」は、20歳代が13.5%と最も高くなっており、年齢が上がるほど漸減する傾向にある。

町名別でみると、「住みたい」が最も高いのは下宿で75.9%と最も高く、下清戸が75.7%、中里が74.3%と続いている。他方、最も低いのは上清戸の54.8%となっている。

居住年数別でみると、15年以上で「住みたい」が70%を超え他の居住年数と比較して高くなっている。

< 図1 - 2 : 性別・年齢別・町名別・居住年数別 >

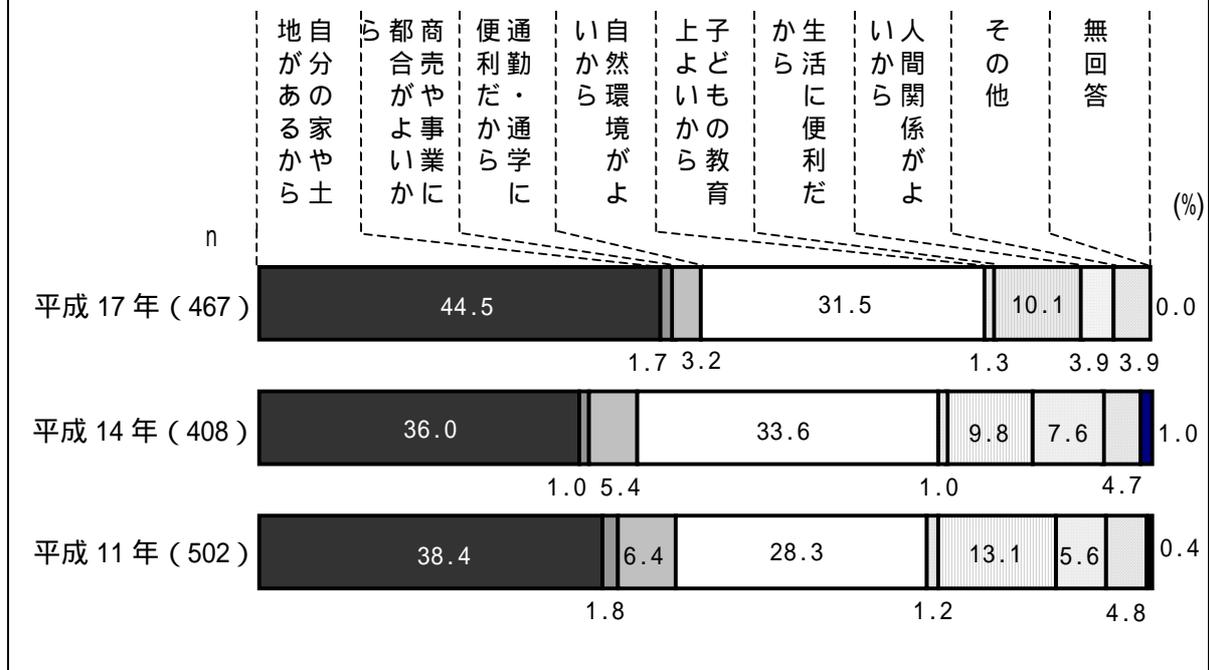


(2) 住みたい理由

SQ1 問1で「住みたい」とお答えの方には、その理由をお聞かせください。

[n = 467]

<図1-3：住みたい理由・経年比較>



【全体・経年比較】

問1で「住みたい」と答えた方にその理由を尋ねたところ、「自分の家や土地があるから」が44.5%と最も高く、次いで「自然環境がよいから」の31.5%となっており、この上位2項目で全体の7割以上を占めている。また、「生活に便利だから」は10.1%となっている。

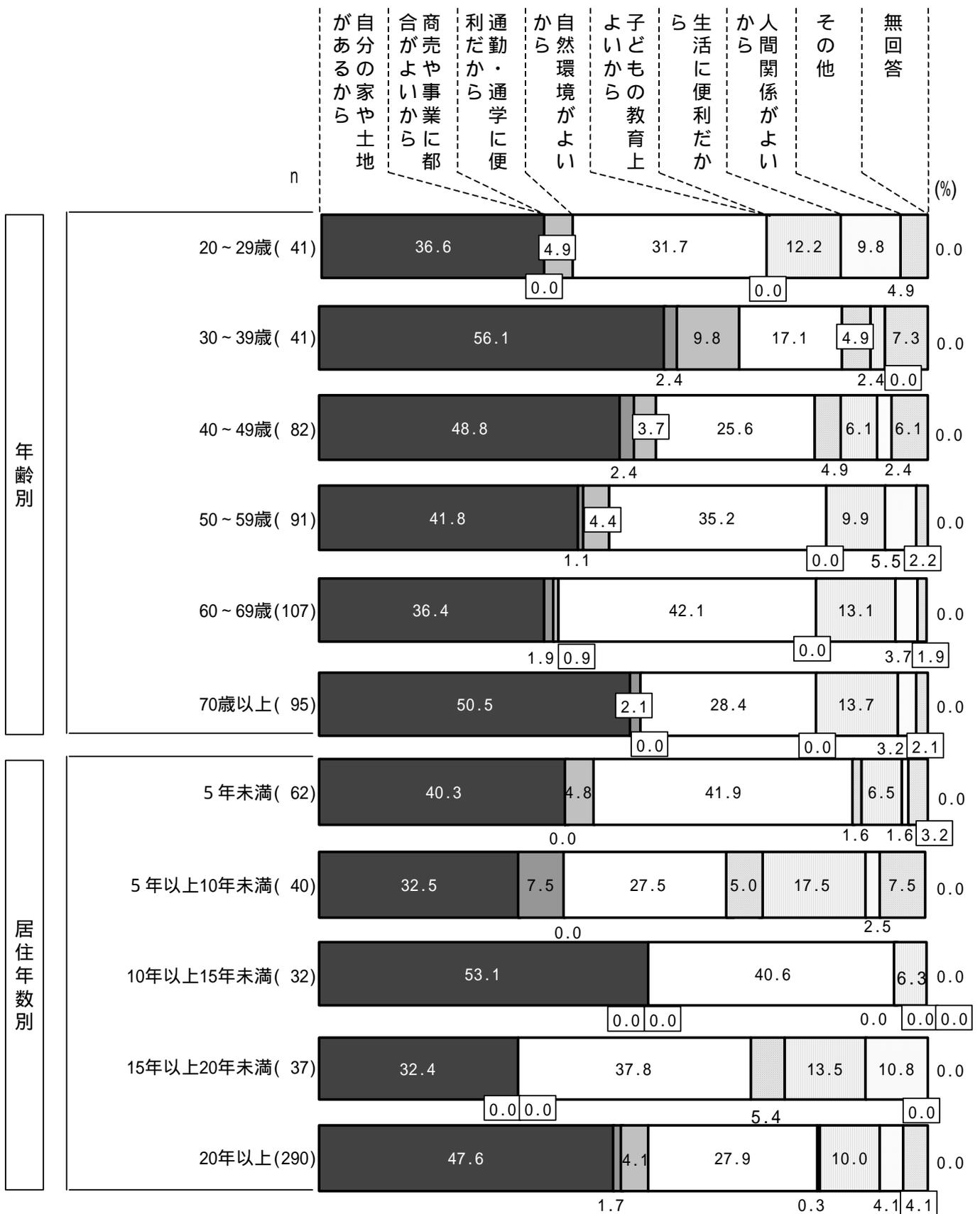
経年変化でみると、「自分の家や土地があるから」が前回調査(平成14年)から8.5ポイント、前々回調査(平成11年)から6.1ポイント増加している。その他の項目については特に大きな数値の変化はみられない。

【年齢別・居住年数別】

年齢別でみると、「自分の家や土地があるから」は30歳代が56.1%と最も高く、70歳以上で50.5%、40歳代で48.8%と高い数値を示している。また、「自然環境がよいから」は60歳代が42.1%と他の年齢層よりも高くなっている。

居住年数別でみると、「自分の家や土地があるから」は10年以上15年未満が53.1%と最も高く、次いで20年以上が47.6%と続いている。また、「人間関係がよいから」は15年以上15年未満で10.8%と他の居住年数よりも高くなっている。

< 図1 - 4 : 住みたい理由・年齢別・居住年数別 >

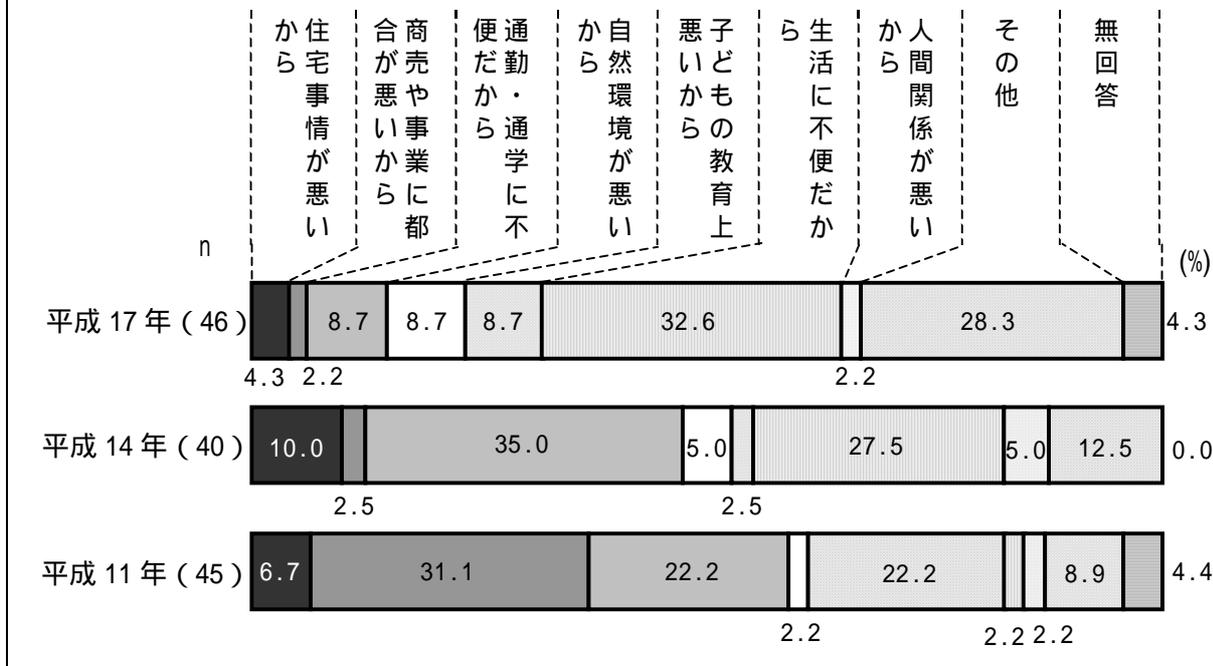


(3) 住みたくない理由

SQ2 問1で「住みたくない」とお答えの方にはうかがいます。その理由をお聞かせください。

[n=46]

<図1-5:住みたくない理由・経年比較>



【全体・経年比較】

問1で「住みたくない」と答えた方にその理由を尋ねたところ、「生活に不便だから」が32.6%と最も高くなっている。

経年変化でみると、「通勤・通学に不便だから」が前回調査（平成14年）では35.0%、前々回調査（平成11年）では22.2%であったが、今回は8.7%と前回調査および前々回調査からそれぞれ26.3ポイント、13.5ポイント減少している。

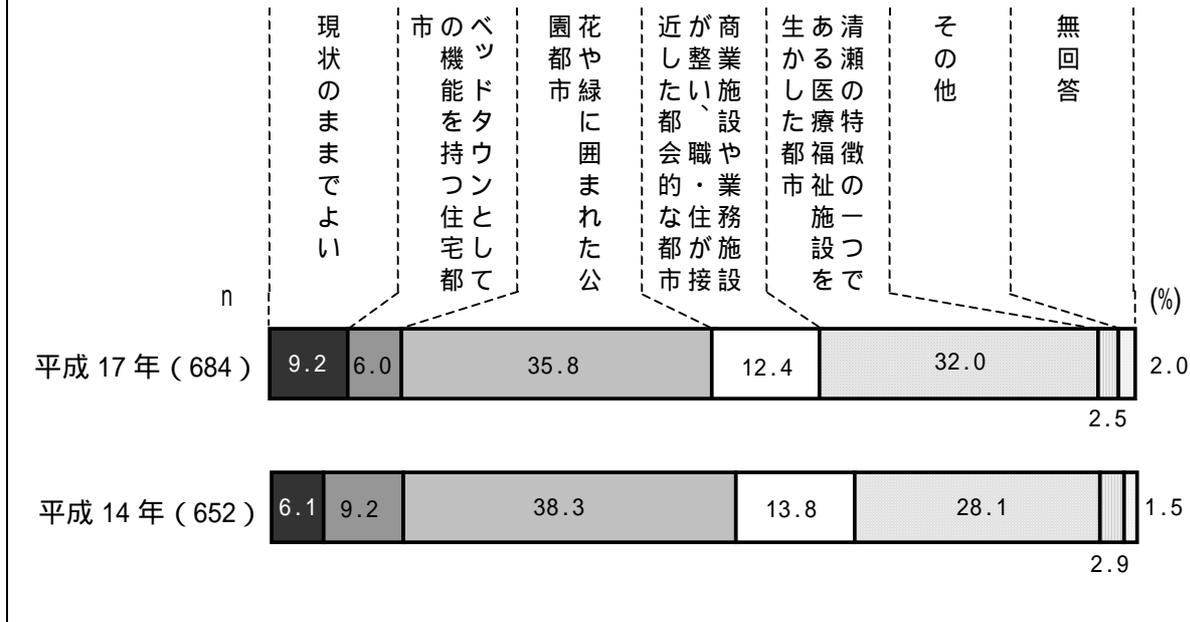
3 将来のまちのイメージ

(1) 市の将来像

問4 清瀬市は「羽ばたけ未来へみどり豊かな文化都市」を未来像にまちづくりを進めていますが、あなたは将来清瀬市がどのような都市になるのが望ましいとお考えですか。

{ n = 684 }

< 図3 - 1 : 市の将来像・経年比較 >



【全体・経年比較】

市の将来像としては、「花や緑に囲まれた公園都市」が 35.8%と最も高く、これに「清瀬の特徴の一つである医療福祉施設を生かした都市」が 32.0%と続き、上位 2 項目で 7 割近くを占めている。また、「商業施設や業務施設が整い、職・住が接近した都会的な都市」が、12.4%となっている。

前回調査（平成 14 年）と比較すると、特に大きな差異はみられない。

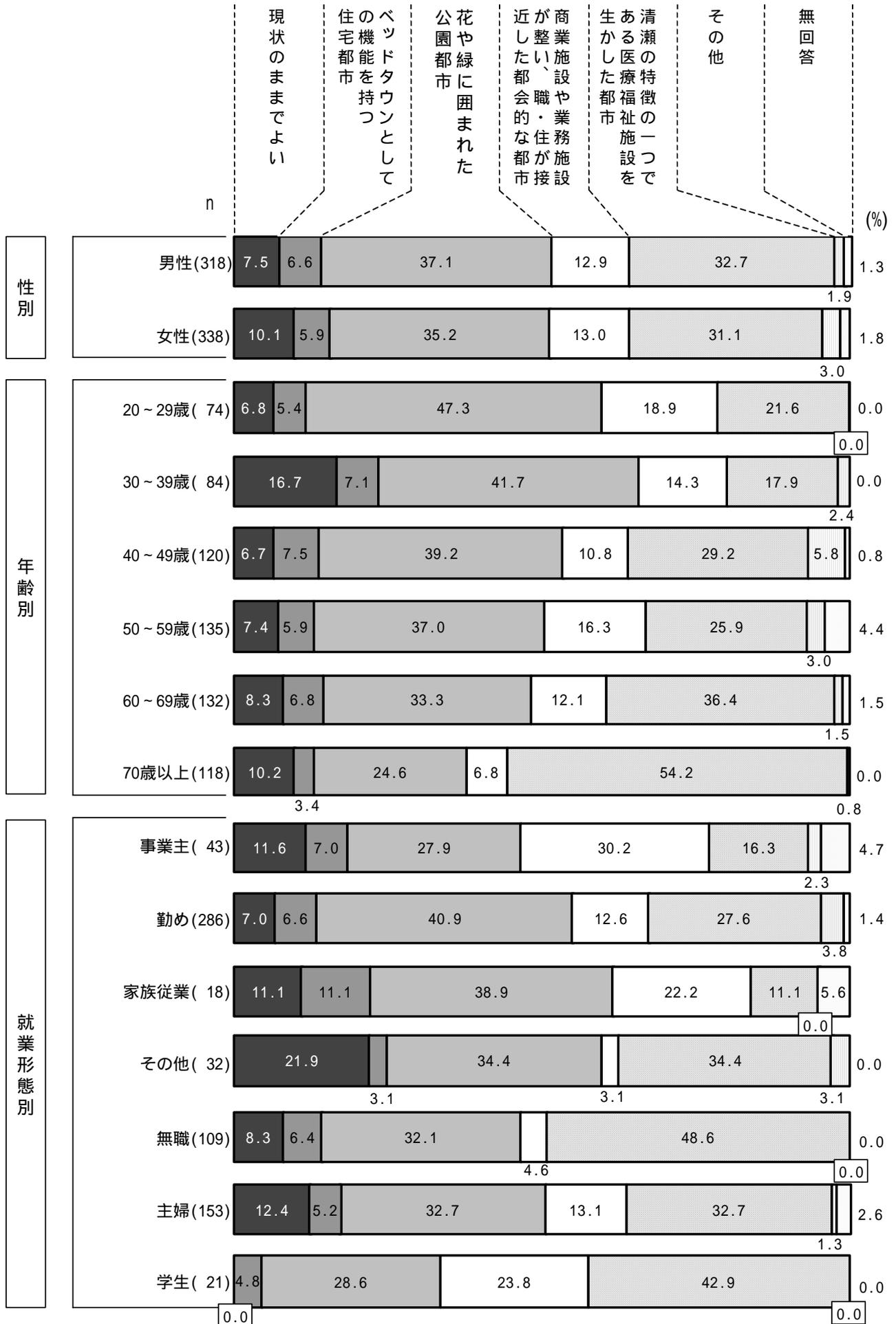
【性別・年齢別・就業形態別】

性別では、特に大きな差異はみられない。

年齢別でみると、「花や緑に囲まれた公園都市」が 20 歳代で 47.3%あるが、年齢が上がるほど漸減する傾向にある。「清瀬の特徴の一つである医療福祉施設を生かした都市」は 70 歳以上が 54.2%と他の年齢層と比較して高く、次いで 60 歳代が 36.4%と続いている。

就業形態別でみると、「花や緑に囲まれた公園都市」はいずれの就業形態でも高いが最も高いのは勤めの 40.9%になっている。また、「清瀬の特徴の一つである医療福祉施設を生かした都市」は、無職で 48.6%、学生で 42.9%と軒並み高い数値を示しているが、家族従業や事業主では、前者で 11.1%、後者で 16.3%と低い数値を示している。

< 図3 - 2 : 性別・年齢別・就業形態別 >

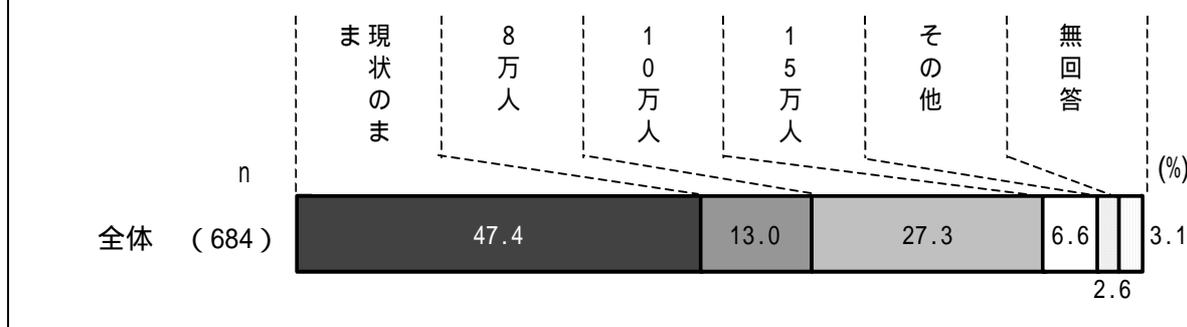


(2) 市の将来の人口

問5 現在、清瀬市の人口は7万3千人程度ですが、あなたが望むようなまちとなるためには、将来の清瀬の人口はどれくらいが適当だと思いますか。

{ n = 684 }

< 図3 - 3 : 市の将来の人口 >



【全体】

市の将来の人口については、「現状のまま」が47.4%で最も高く、次いで「10万人」が27.3%、「8万人」が13.0%で続いている。

< 表3 - 1 : 市の将来の人口・経年比較 >

順位	平成11年 [n = 755]	平成14年 [n = 652]	平成17年 [n = 684]
1位	現状のまま (55.8)	現状のまま (50.5)	現状のまま (47.4)
2位	10万人 (18.8)	10万人 (25.3)	10万人 (27.3)
3位	7.5万人 (17.9)	7.5万人 (16.1)	8万人 (13.0)
4位	15万人 (2.9)	15万人 (2.8)	15万人 (6.6)

【経年比較】

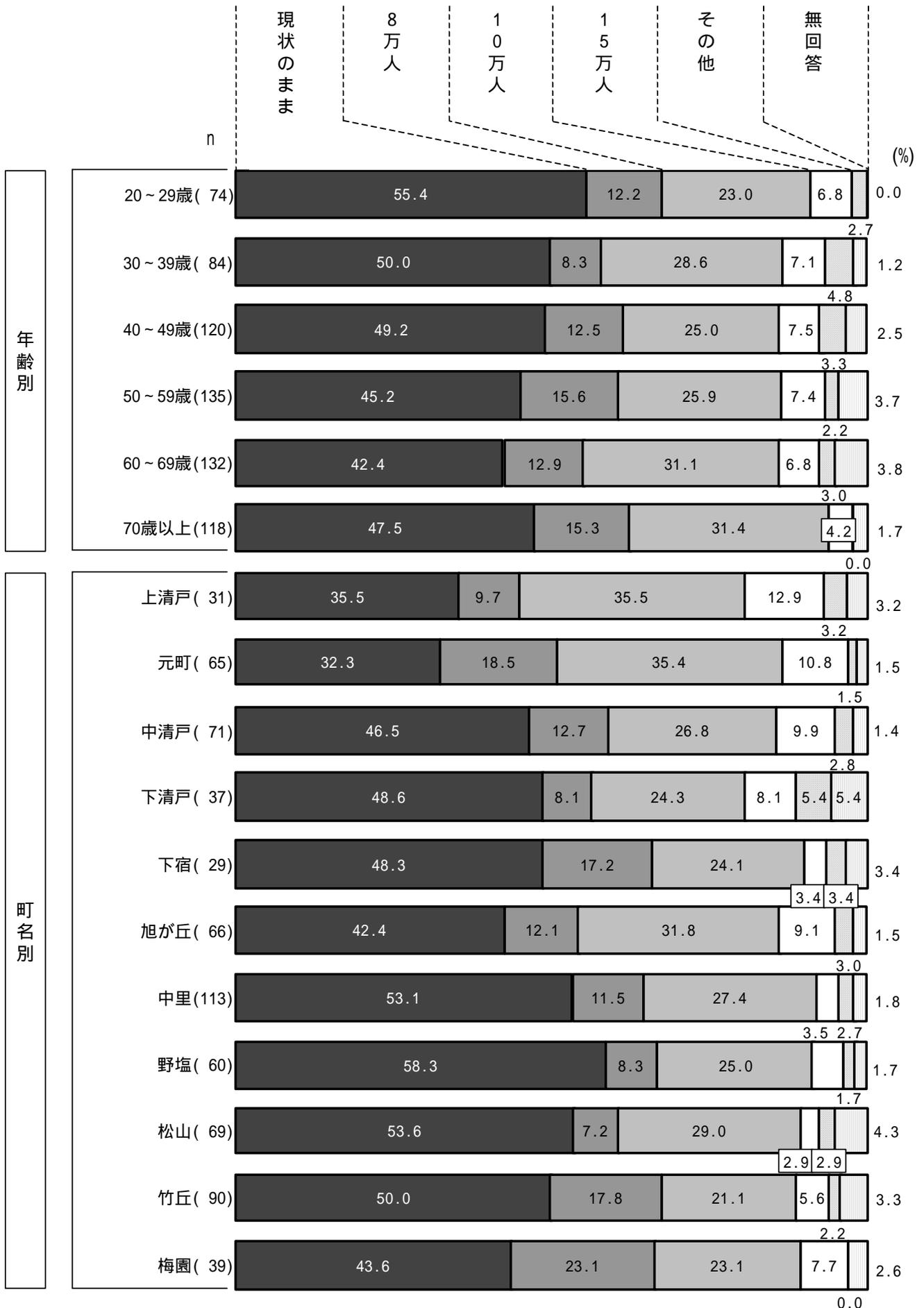
前々回調査(平成11年)・前回調査(平成14年)とともに今回調査においても「現状のまま」が47.4%で最も高くなっている。もっとも、前々回調査からは、8.4ポイント減少しており、漸減する傾向にある。他方、「10万人」が前々回調査から、8.5ポイント増加している。

【年齢別・町名別】

年齢別でみると、「現状のまま」は、いずれの年齢層においても高い数値を示しているが、20歳代で最も高く55.4%となっている。また、「10万人」は60歳代、70歳以上でそれぞれ31.1%、31.4%と他の年齢層よりも高くなっている。

町名別でみると、「現状のまま」は野塩が58.3%で最も高く、次いで松山が53.6%で続いている。また、「8万人」は梅園が23.1%と比較的高く、「10万人」では上清戸と元町でそれぞれ35.5%、35.4%と高い数値を示している。

< 図 3 - 4 : 年齢別・町名別 >

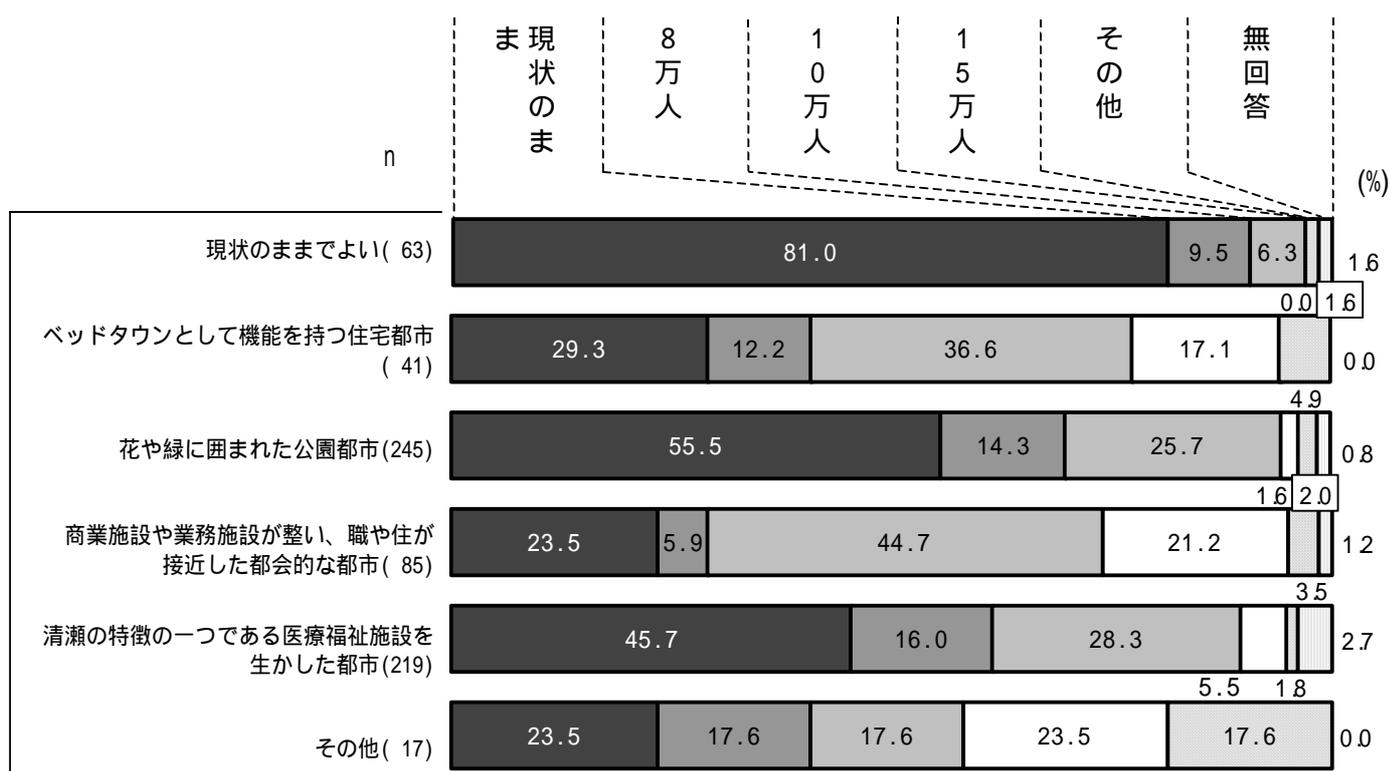


～市の将来像と人口の関係～

これまで『問4 市の将来像』と『問5 市の将来の人口』で清瀬市の将来像を模索したが、ここでは、それらの回答別にどのような傾向があるかをみることにする。なお、分析の軸(=表側)には『問4 市の将来像』の回答別を置き、“「将来的には 〇〇のような都市」を理想に描いているので、「人口は 〇〇くらい」が理想である”という傾向がみられるようにした。

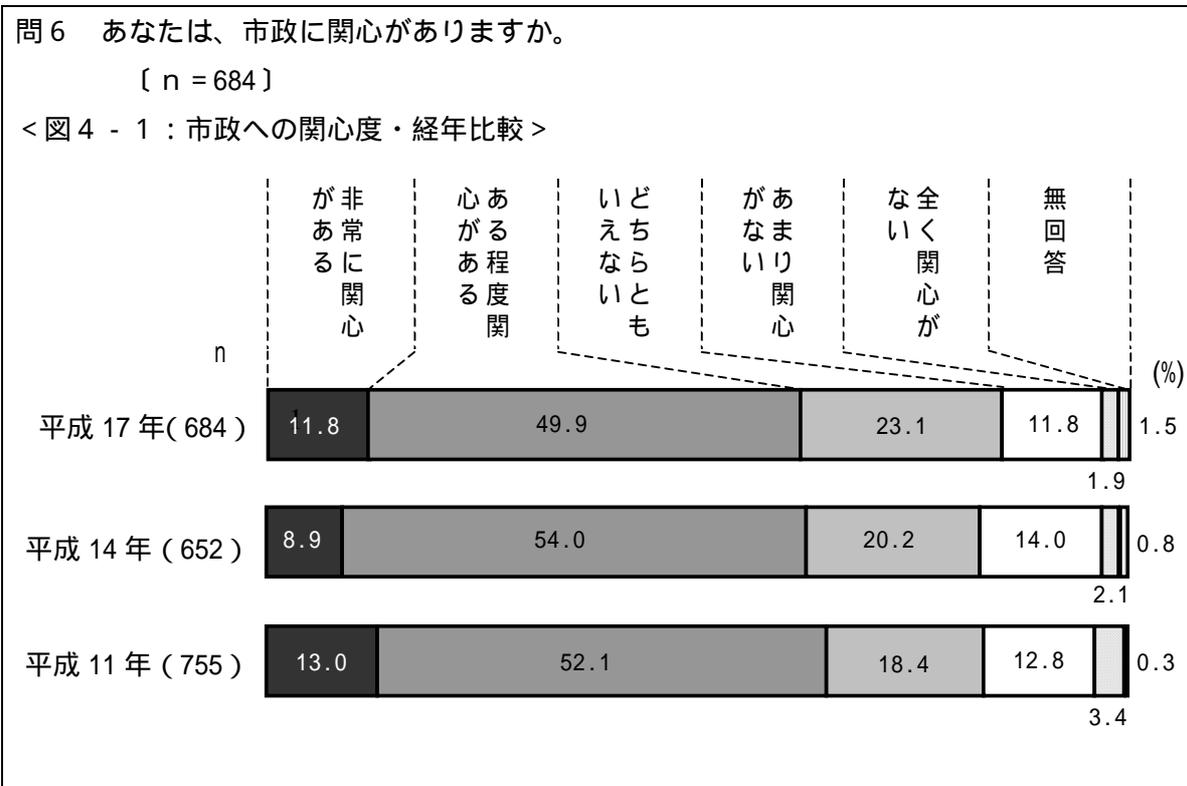
その結果、『問4 市の将来像』を“現状のままでよい”、“花や緑に囲まれた公園都市”“清瀬の特徴の一つである医療福祉施設を生かした都市”と回答した人は、『問5 市の将来の人口』でも「現状のまま」と回答する傾向にあり、それぞれ81.0%、55.5%、45.7%と高い数値を示している。他方、『問4 市の将来像』を“商業施設や業務施設が整い、職・住が接近した都会的な都市”“ベッドタウンとして機能をもつ住宅都市”と回答した人は、『問5 市の将来の人口』で「10万人」がそれぞれ44.7%・36.6%と高くなっている。

< 図3 - 5 : 市の将来像と人口の関係 >



4 市政への関心

(1) 市政への関心度



【全体・経年比較】

市政への関心度では、「非常に関心がある」は11.8%であるが、「ある程度関心がある」とあわせた『関心派』は61.7%になる。他方、「あまり関心がない」と「全く関心がない」をあわせた『無関心派』は13.7%になっている。

前回調査（平成14年）と比較すると、『無関心派』は若干減少したものの、特に大きな変化はみられない。

【性別・年齢別・就業形態別・居住年数別】

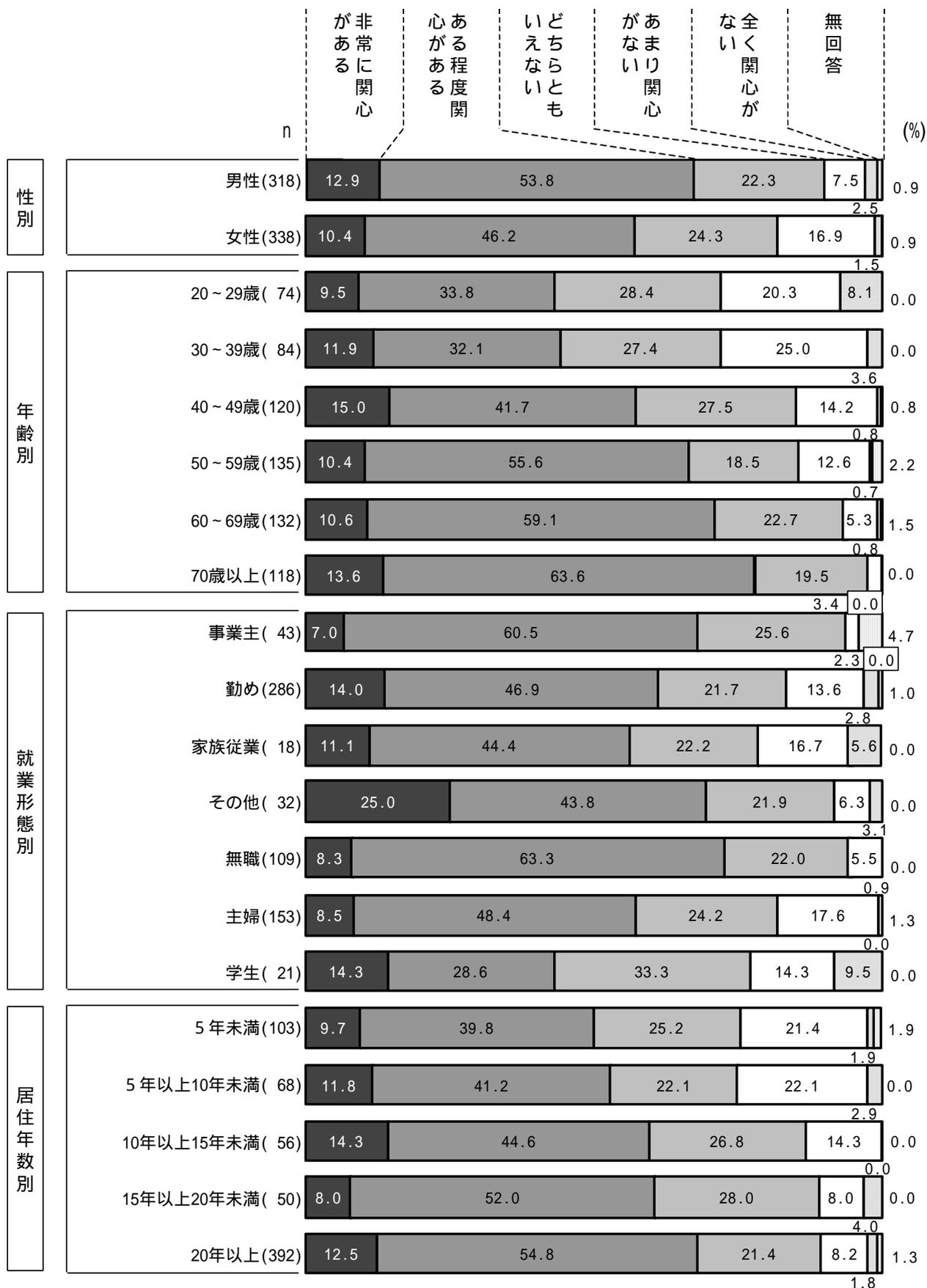
性別で見ると、『関心派』は男性（66.7%）と女性（56.6%）となっており、男性が10.1ポイント高くなっている。他方、『無関心派』は女性（18.4%）と男性（10.0%）となっており、女性が8.4ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、『関心派』は年齢が上がるほど漸増しており、70歳以上では77.2%と最も高くなっている。逆に『無関心派』が20歳代、30歳代でそれぞれ28.4%、28.6%と高い数値を示している。

就業形態別で見ると、『関心派』は無職が71.6%と最も高くなっている。逆に、学生は42.9%と最も低い数値を示している。そのことを反映してか『無関心派』は学生が23.8%と最も高い数値を示している。

居住年数別で見ると、『関心派』は居住年数が長くなるほど漸増しており、20年以上では67.3%と最も高くなっている。

< 図4 - 2 : 性別・年齢別・就業形態別・居住年数別 >

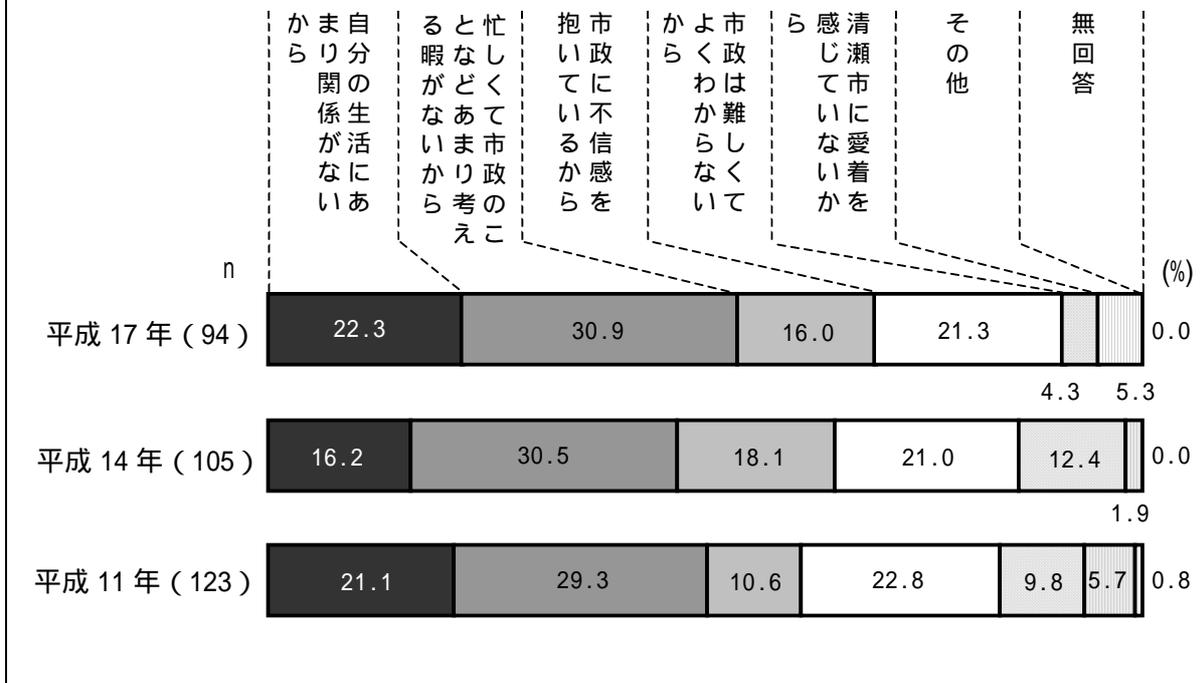


(2) 関心がない理由

SQ1 問6で「あまり関心がない」、「まったく関心がない」とお答えの方にうかがいます。その理由を次の中からお答えください。

[n = 94]

< 図4 - 3 : 関心がない理由・経年比較 >



【全体・経年比較】

問6で『無関心派』だった方に理由を尋ねたところ、「忙しくて市政のことなどあまり考える暇がないから」が30.9%と最も高く、「自分の生活にあまり関係がないから」が22.3%、「市政は難しくよくわからないから」が21.3%で続いている。

前回調査(平成14年)と比較すると、「清瀬市に愛着を感じていないから」が8.1ポイント減少し、「自分の生活にあまり関係がないから」が6.1ポイント増加している。

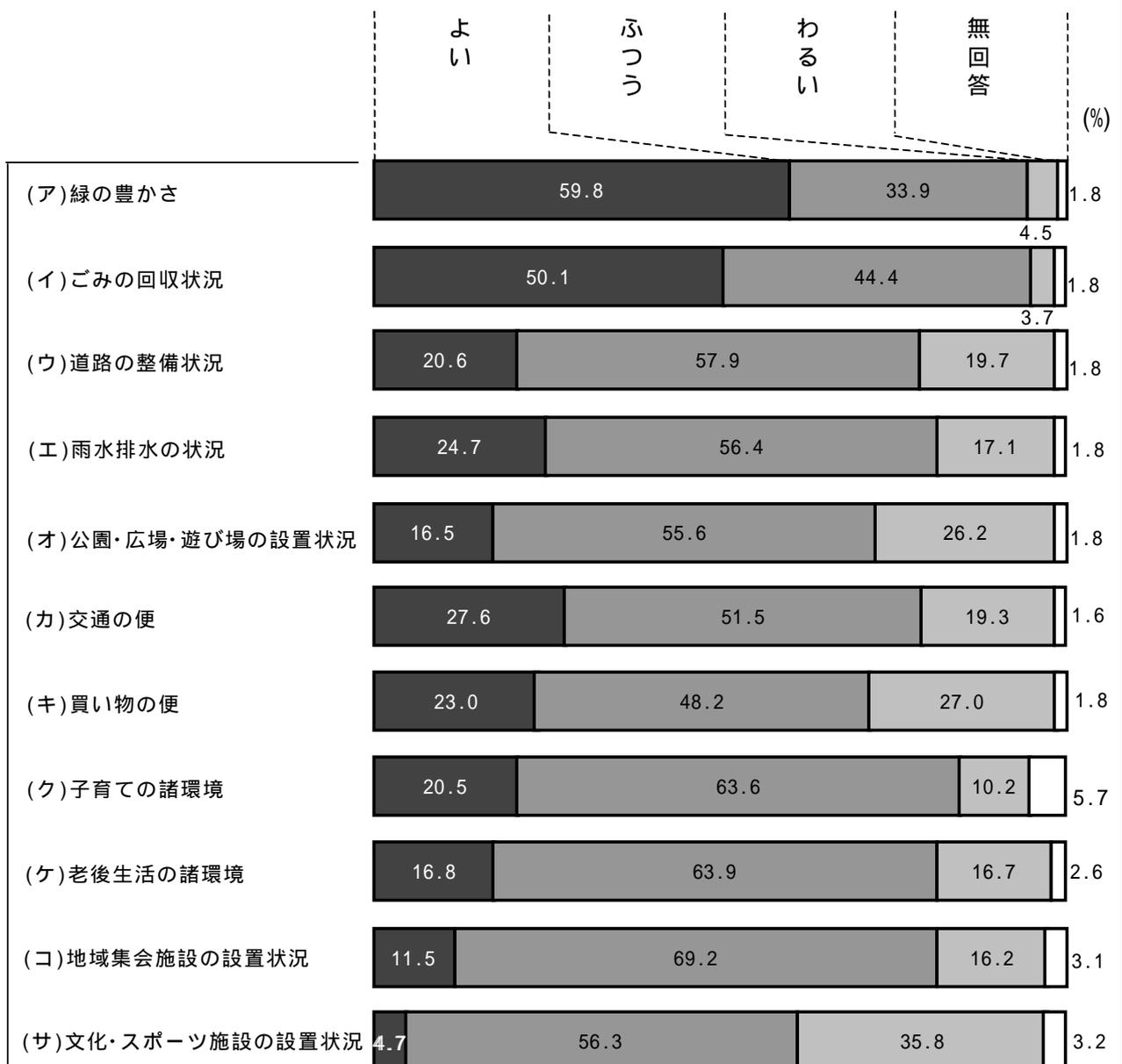
2 生活環境評価

(1) 生活環境評価

問2 あなたの身近な生活環境についてうかがいます。(ア)～(サ)の各項目について、あなたの率直な気持ちをお聞かせください。

[n = 684]

<図2 - 1 : 生活環境評価>



身近な生活環境を（ア）～（サ）までの11の項目に分け、それぞれの評価をたずねた。

「よい」との評価を満足、「わるい」を不満足として、それぞれの上位5項目をあげると次のようになる。

満足		× 不満足	
緑の豊かさ	(59.8%)	文化・スポーツ施設の設置状況	(35.8%)
ごみの回収状況	(50.1%)	買い物の便	(27.0%)
交通の便	(27.6%)	公園・広場・遊び場の設置状況	(26.2%)
雨水排水の状況	(24.7%)	道路の整備状況	(19.7%)
買い物の便	(23.0%)	交通の便	(19.3%)

< 加重平均値 >

生活環境の評価を比率でみるのとは別に、その比較をより明確にするために、加重平均値による数量化を試みた。これは、下記の計算式にあるように、評価にそれぞれ点数を与え、評価点を算出する方法である。

$$\text{評価点} = \frac{\text{「よいの回答者数」} \times 10 \text{ 点} + \text{「わるいの回答者数」} \times 10 \text{ 点}}{\text{回答者数}}$$

この算出方法では、評価点は+10.00点～-10.00点の間に分布し中間点の0.00点を境に、+10.00点に近くなるほど「よい」との評価は高くなり、逆に-10.00点に近くなるほど「わるい」との評価が高くなる。

これによる評価点の高いものと、低いものの上位5項目は次のようになっている。

満足		× 不満足	
緑の豊かさ	+5.63	文化・スポーツ施設の設置状況	3.22
ごみの回収状況	+4.73	公園・広場・遊び場の設置状況	0.98
子育ての諸環境	+1.09	地域集会施設の設置状況	0.48
交通の便	+0.85	買い物の便	0.42
雨水排水の状況	+0.77	老後生活の諸環境	+0.02

11項目の合計点を市全体及び町名別で比較すると次のようになる。

市全体の合計点	8.07		
上清戸	10.62	中里	8.28
元町	12.46	野塩	10.87
中清戸	5.38	松山	7.20
下清戸	9.03	竹丘	15.59
下宿	5.96	梅園	1.38
旭が丘	10.11		

<表 2 - 1 : 町名別加重平均値 >

	生活環境											
	(ア) (イ) (ウ) (エ) (オ) (カ) (キ) (ク) (ケ) (コ) (サ) までの合計点	(ア) 緑の豊かさ	(イ) ごみの回収状況	(ウ) 道路の整備状況	(エ) 雨水排水の状況	(オ) 公園・広場・遊び場の設置状況	(カ) 交通の便	(キ) 買い物物の便	(ク) 子育ての諸環境	(ケ) 老後生活の諸環境	(コ) 地域集会施設の設置状況	(サ) 文化・スポーツ施設の設置状況
市全体(平成17年)	8.07	5.63	4.73	0.09	0.77	0.98	0.85	0.42	1.09	0.02	0.48	3.22
市全体(平成14年)	9.76	5.67	4.54	0.08	1.47	0.95	0.71	0.03	1.58	0.05	0.21	3.15
上清戸	10.62	4.67	5.33	2.67	2.00	2.33	1.67	1.00	1.00	1.67	1.38	3.67
元町	12.46	4.15	4.92	0.46	0.62	2.46	4.31	3.54	0.00	0.62	0.16	3.54
中清戸	5.38	5.29	5.43	1.00	0.57	0.86	0.43	1.74	0.88	0.29	0.71	3.48
下清戸	9.03	6.76	2.70	0.54	0.27	2.43	3.24	5.68	0.57	0.00	2.70	5.28
下宿	5.96	7.59	3.45	1.72	0.34	0.34	2.41	2.76	1.48	0.34	1.03	1.03
旭が丘	10.11	6.52	4.85	0.76	1.67	1.06	0.91	0.00	2.27	1.06	0.30	2.62
中里	8.28	6.82	5.82	0.18	0.09	1.36	0.27	1.64	1.89	0.45	0.46	2.87
野塩	10.87	5.76	5.25	0.68	0.85	0.68	1.36	1.36	1.38	0.51	0.00	3.22
松山	7.20	3.33	4.49	0.87	1.01	1.74	4.64	1.74	0.15	1.03	1.19	3.33
竹丘	15.59	6.29	4.27	0.22	2.02	2.61	0.90	1.12	1.08	1.15	0.92	2.76
梅園	1.38	5.00	4.21	1.32	1.32	3.16	0.79	1.05	0.00	0.57	1.62	4.32

～生活環境評価の比較（加重平均値）～

【全体・経年比較・町名別】

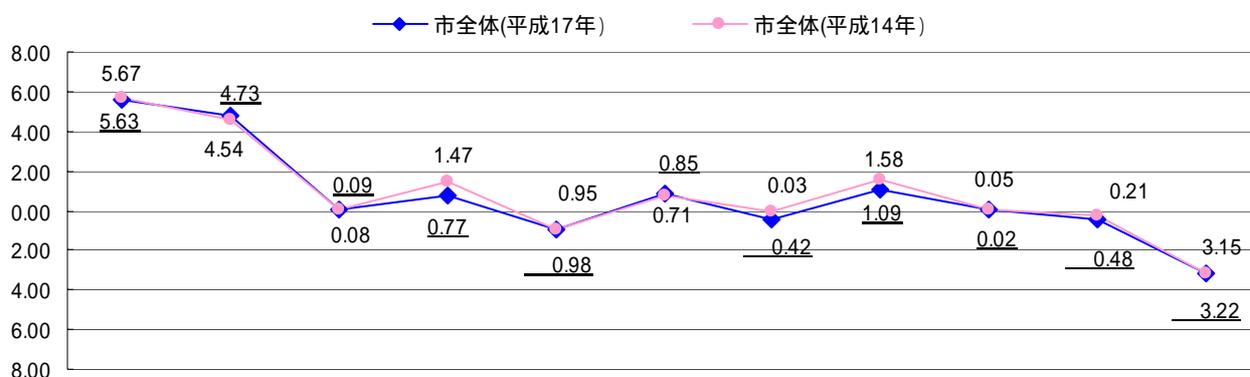
前回調査（平成14年）と比較すると、「雨水排水の状況」が0.7点増加したが、その他の項目については、特に大きな変わりはない。

上清戸

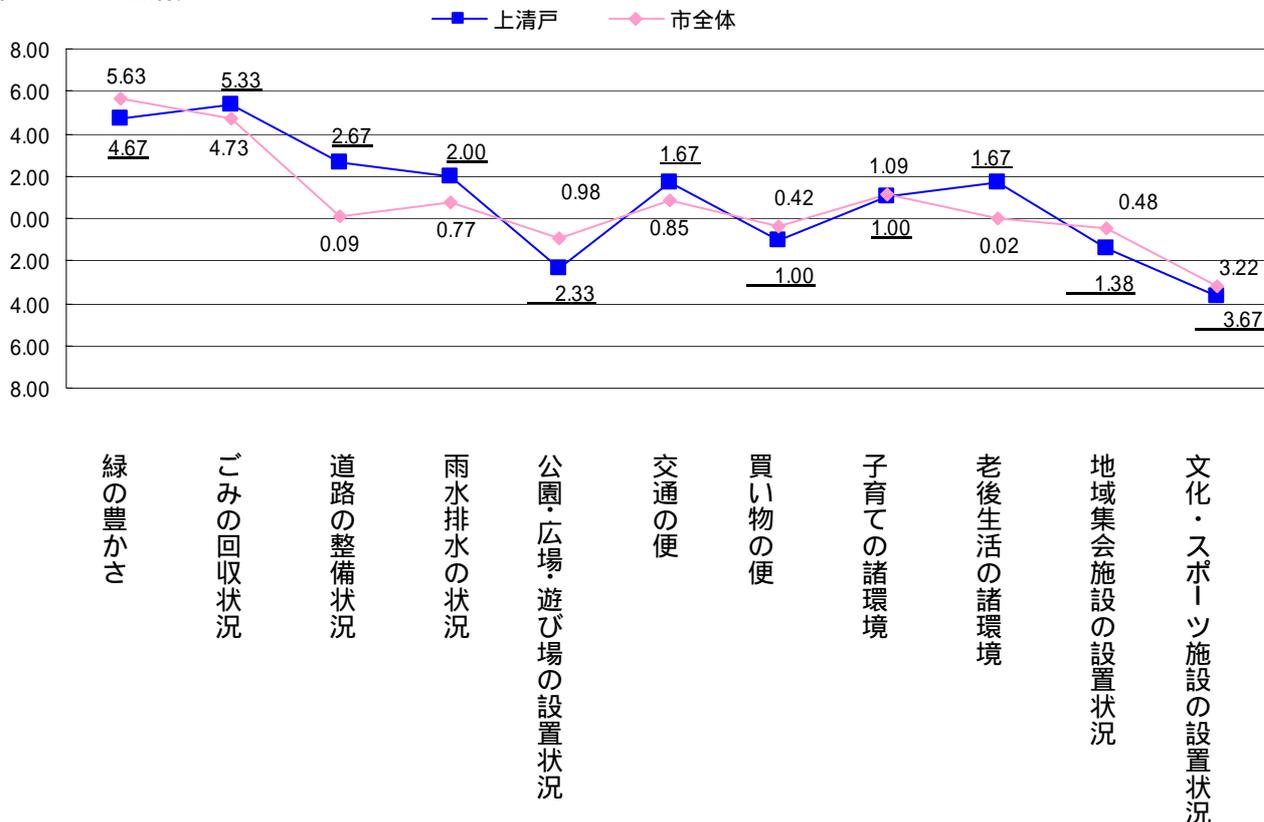
上回るもの・・・11項目中5項目が市全体を上回っており、差が大きいものとしては、「道路の整備状況」の2.58点差、「老後生活の諸環境」の1.65点差があげられる。

下回るもの・・・11項目中6項目が市全体を下回っており、その中で差が大きいものとしては、「公園・広場・遊び場の設置状況」の1.35点差となっている。

<図2-2：経年比較>



<図2-3：上清戸>



元町

上回るもの・・・11項目中6項目が市全体を上回っており、差が大きいものには、「買い物の便」の3.96点差、「交通の便」の3.46点差があげられる。

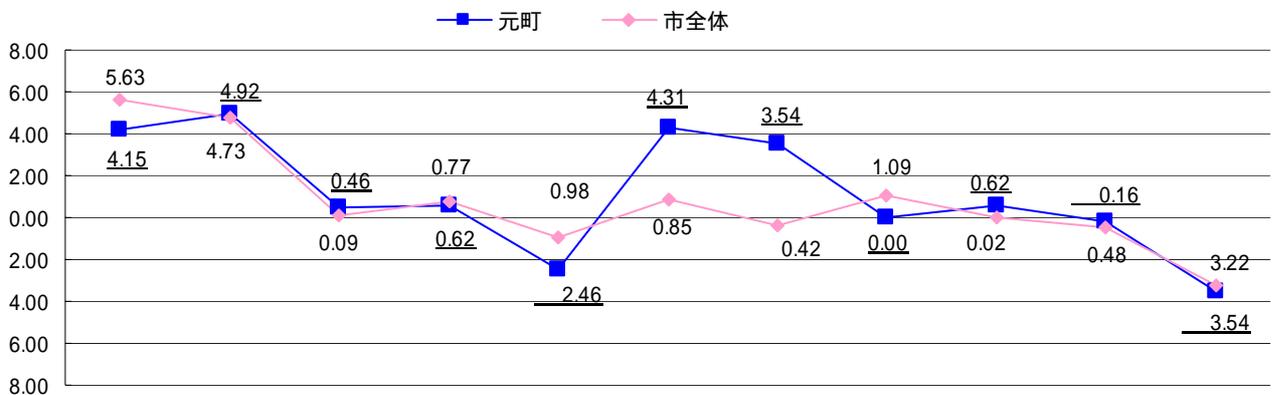
下回るもの・・・11項目中5項目が市全体を下回っており、その中でも「公園・広場・遊び場の設置状況」は1.48点差となっている。

中清戸

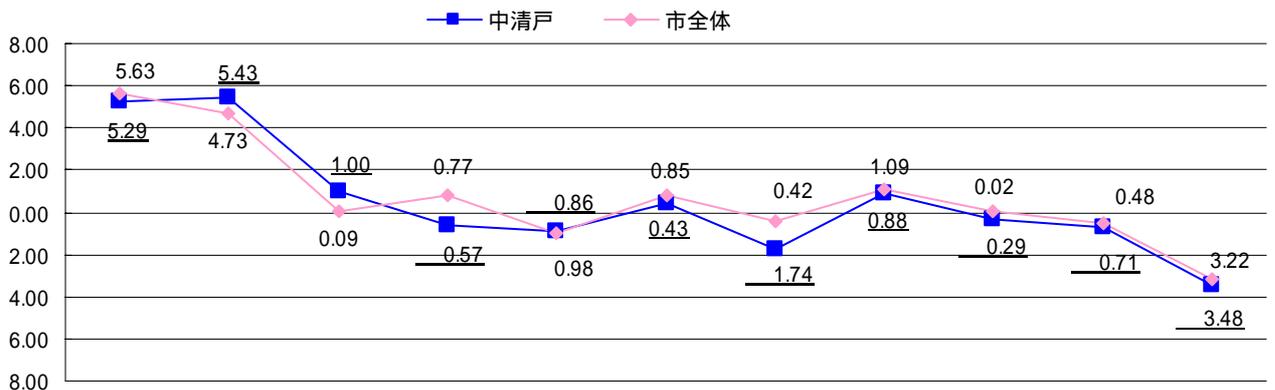
上回るもの・・・11項目中3項目で市全体を上回り、その中でも「道路の整備状況」は0.91点差と差が大きくなっている。

下回るもの・・・11項目中8項目で市全体を下回っており、その中で差が大きいものとしては、「雨水排水の状況」の1.34点差、「買い物の便」の1.32点差となっている。

<図2-4: 元町>



<図2-5: 中清戸>



緑の豊かさ
 ごみの回収状況
 道路の整備状況
 雨水排水の状況
 公園・広場・遊び場の設置状況
 交通の便
 買い物の便
 子育ての諸環境
 老後生活の諸環境
 地域集会施設の設置状況
 文化・スポーツ施設の設置状況

下清戸

上回るもの・・・11項目中2項目が市全体を上回り、その中でも「緑の豊かさ」が1.13点差あり比較的大きい。

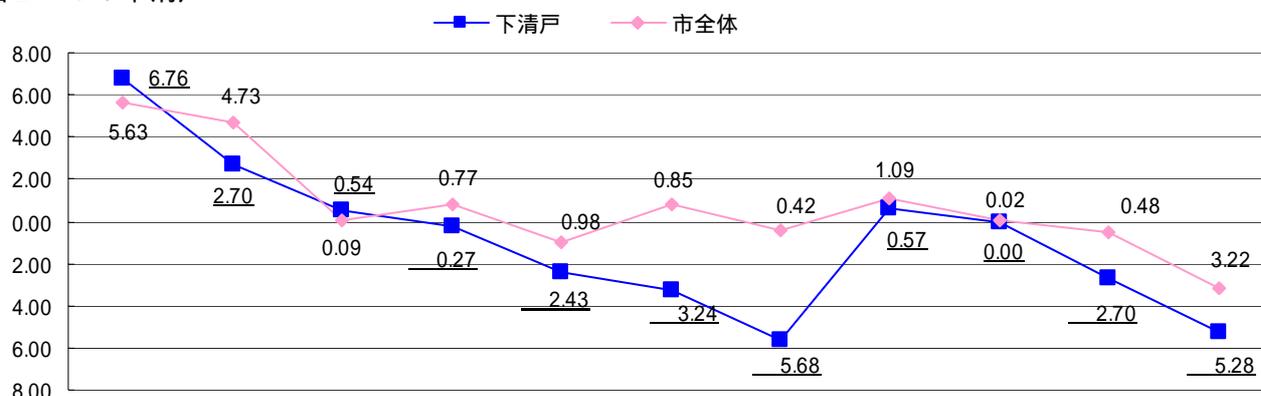
下回るもの・・・11項目中9項目で市全体を下回っており、その中で差が大きいものとしては、「買い物の便」の5.26点差、「交通の便」の4.09点差と続いている。

下宿

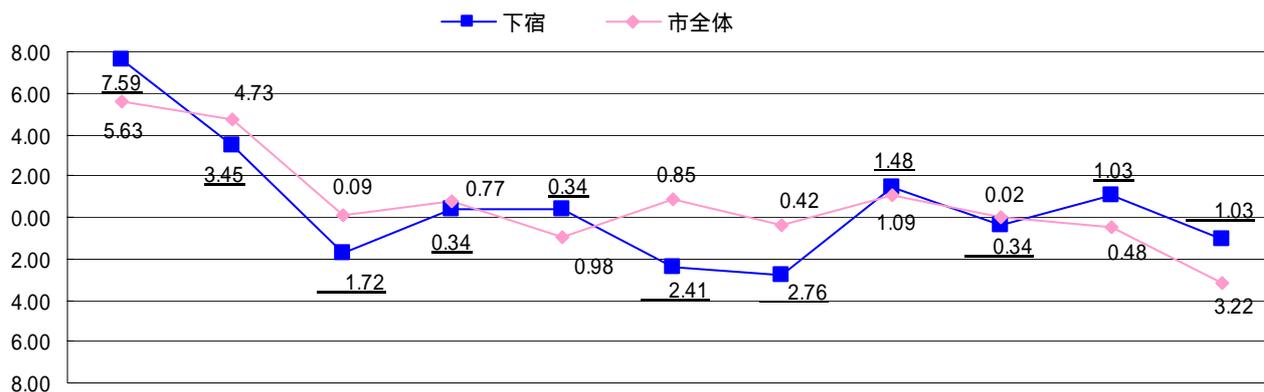
上回るもの・・・11項目中5項目で市全体を上回り、差が大きいものには、「文化・スポーツ施設の設置状況」の2.19点差、「地域集会施設の設置状況」の1.51点差、「公園・広場・遊び場の設置状況」の1.32点差となっている。

下回るもの・・・11項目中6項目で市全体を下回っており、その中でも「交通の便」は3.26点差と差が大きい。

< 図2 - 6 : 下清戸 >



< 図2 - 7 : 下宿 >



緑の豊かさ
 ごみの回収状況
 道路の整備状況
 雨水排水の状況
 公園・広場・遊び場の設置状況
 交通の便
 買い物の便
 子育ての諸環境
 老後生活の諸環境
 地域集会施設の設置状況
 文化・スポーツ施設の設置状況

旭が丘

上回るもの・・・11項目中8項目が市全体を上回っており、「子育ての諸環境」は1.18点差と差が大きい。

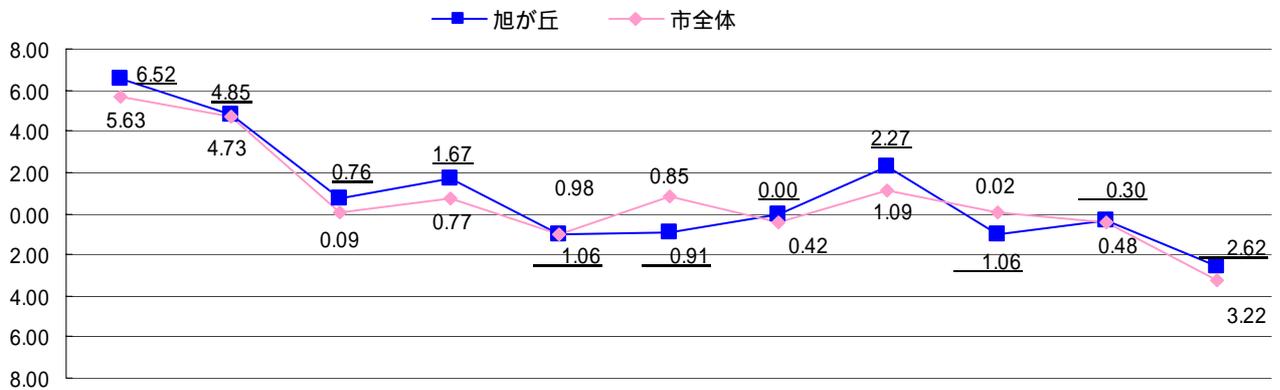
下回るもの・・・11項目中3項目が市全体を下回っており、その中で「老後生活の諸環境」が1.08点差となっている。

中里

上回るもの・・・11項目中6項目が市全体を上回っており、「緑の豊かさ」は1.19点差と差が大きい。

下回るもの・・・11項目中5項目が市全体を下回っており、その中で比較的差が大きいのは「買い物の便」の1.22点差、「交通の便」の1.12点差となっている。

<図2-8：旭が丘>



<図2-9：中里>



緑の豊かさ
 ごみの回収状況
 道路の整備状況
 雨水排水の状況
 公園・広場・遊び場の設置状況
 交通の便
 買い物の便
 子育ての諸環境
 老後生活の諸環境
 地域集会施設の設置状況
 文化・スポーツ施設の設置状況

野塩

上回るもの・・・11項目中9項目が市全体を上回っており、中でも差が大きいものとしては「買い物の便」の1.78点差があげられる。

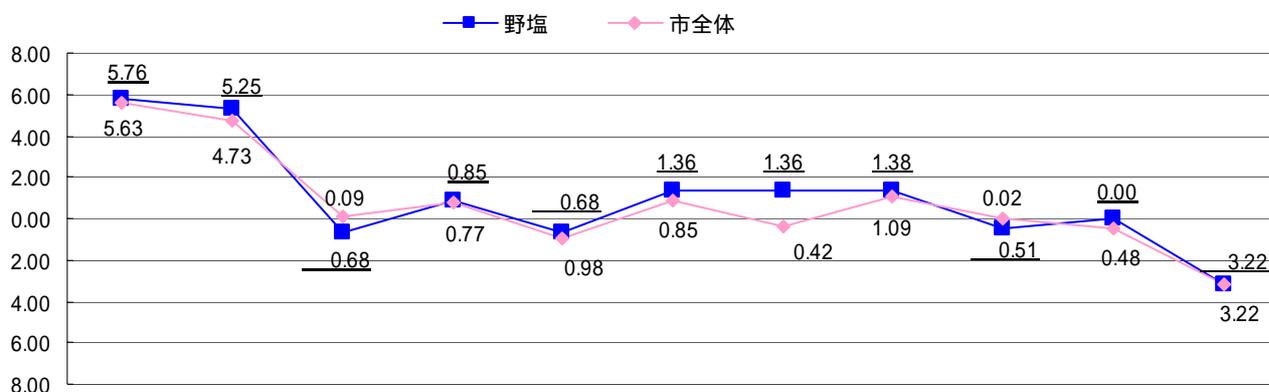
下回るもの・・・11項目中2項目で市全体を下回っているが、特に大きな差はない。

松山

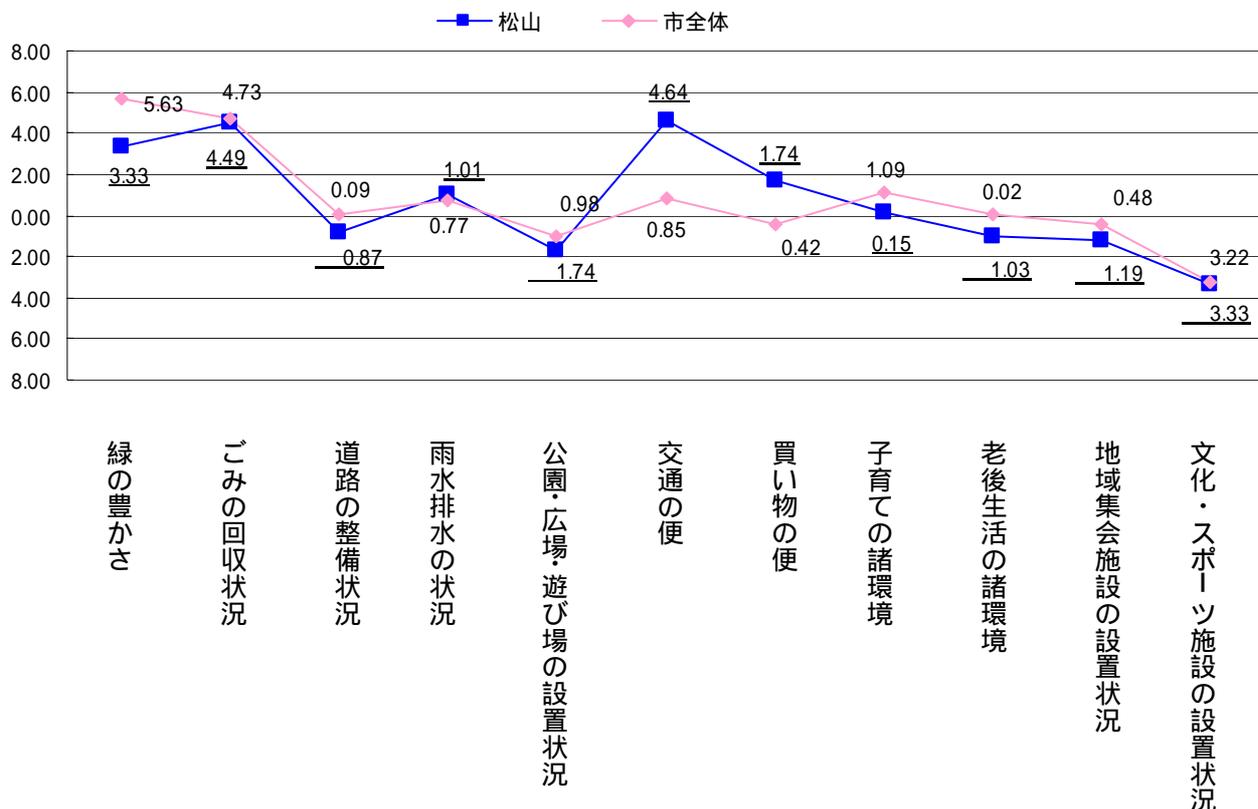
上回るもの・・・11項目中4項目が市全体を上回り、特に「交通の便」、「買い物の便」においては前者において3.79点、後者において2.16点の差がある。

下回るもの・・・11項目中7項目で市全体を下回っており、その中で差が大きいものとしては、「緑の豊かさ」の2.30点差、「老後生活の諸環境」の1.05点差があげられる。

< 図2 - 10 : 野塩 >



< 図2 - 11 : 松山 >



竹丘

上回るもの・・11項目中8項目が市全体を上回っており、差が大きいものには「公園・広場・遊び場の設置状況」の3.59点差、「地域集会施設の設置状況」の1.40点差があげられる。

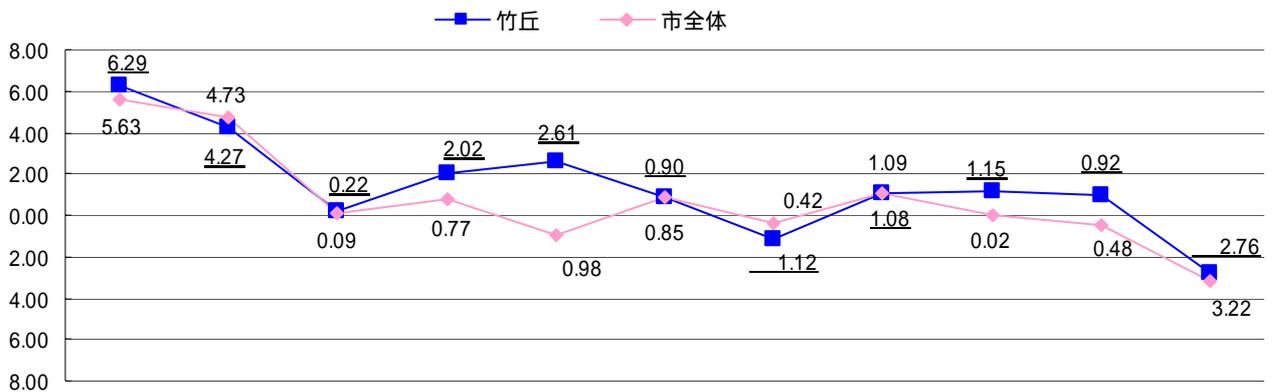
下回るもの・・11項目中3項目が市全体を下回っているが、特に大きな差はない。

梅園

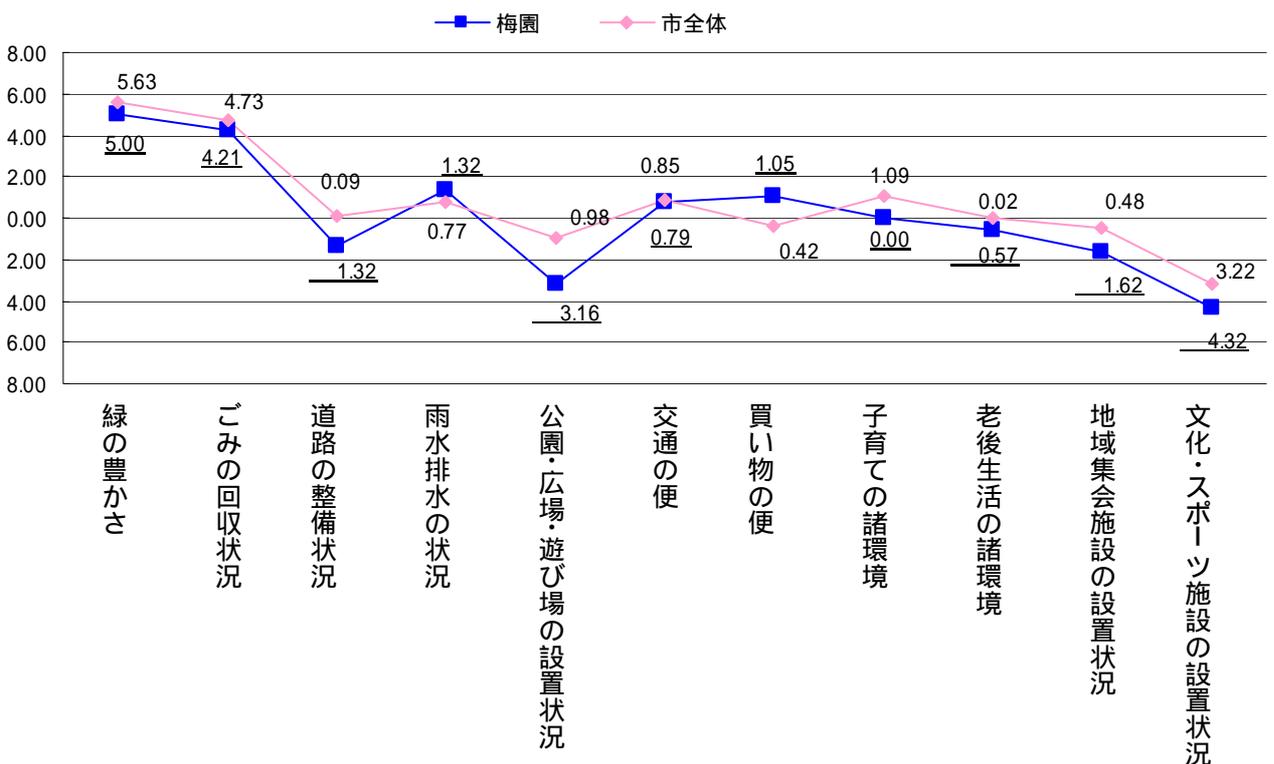
上回るもの・・11項目中2項目が市全体を上回っており、「買い物の便」は1.47点差と比較的大きい。

下回るもの・・11項目中9項目が市全体を下回っており、差が大きいものとしては「公園・広場・遊び場の設置状況」の2.28点差、「道路の整備状況」の1.41点差があげられる。

<図2 - 12 : 竹丘>



<図2 - 13 : 梅園>

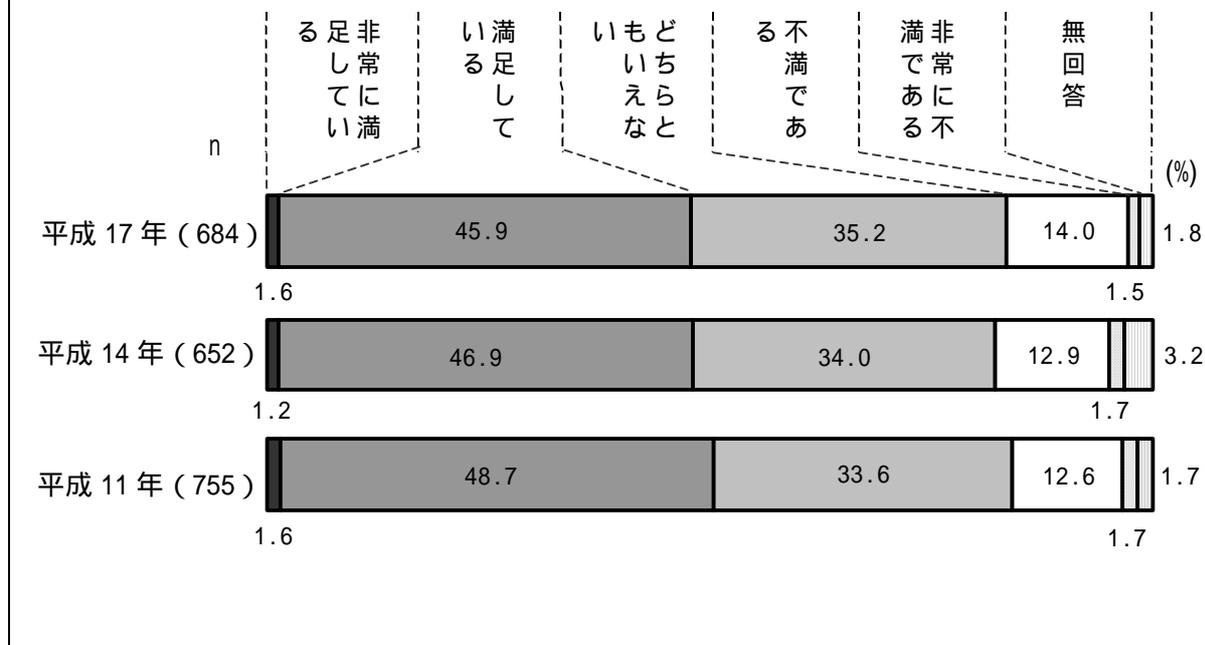


(2) 生活環境の満足度

問3 全体として、あなたは身近な生活環境にどの程度満足していますか。

[n = 684]

< 図2 - 14 : 生活環境の満足度・経年比較 >



【全体・経年比較】

身近な生活環境の満足度についてしてみると、「非常に満足している」は1.6%と少数であるが、「満足している」とあわせた『満足派』は47.5%になる。また、「不満である」と「非常に不満である」をあわせた『不満足派』は、15.5%にとどまっている。

前回調査（平成14年）及び前々回調査（平成11年）と比較すると大きな変化はみられない。

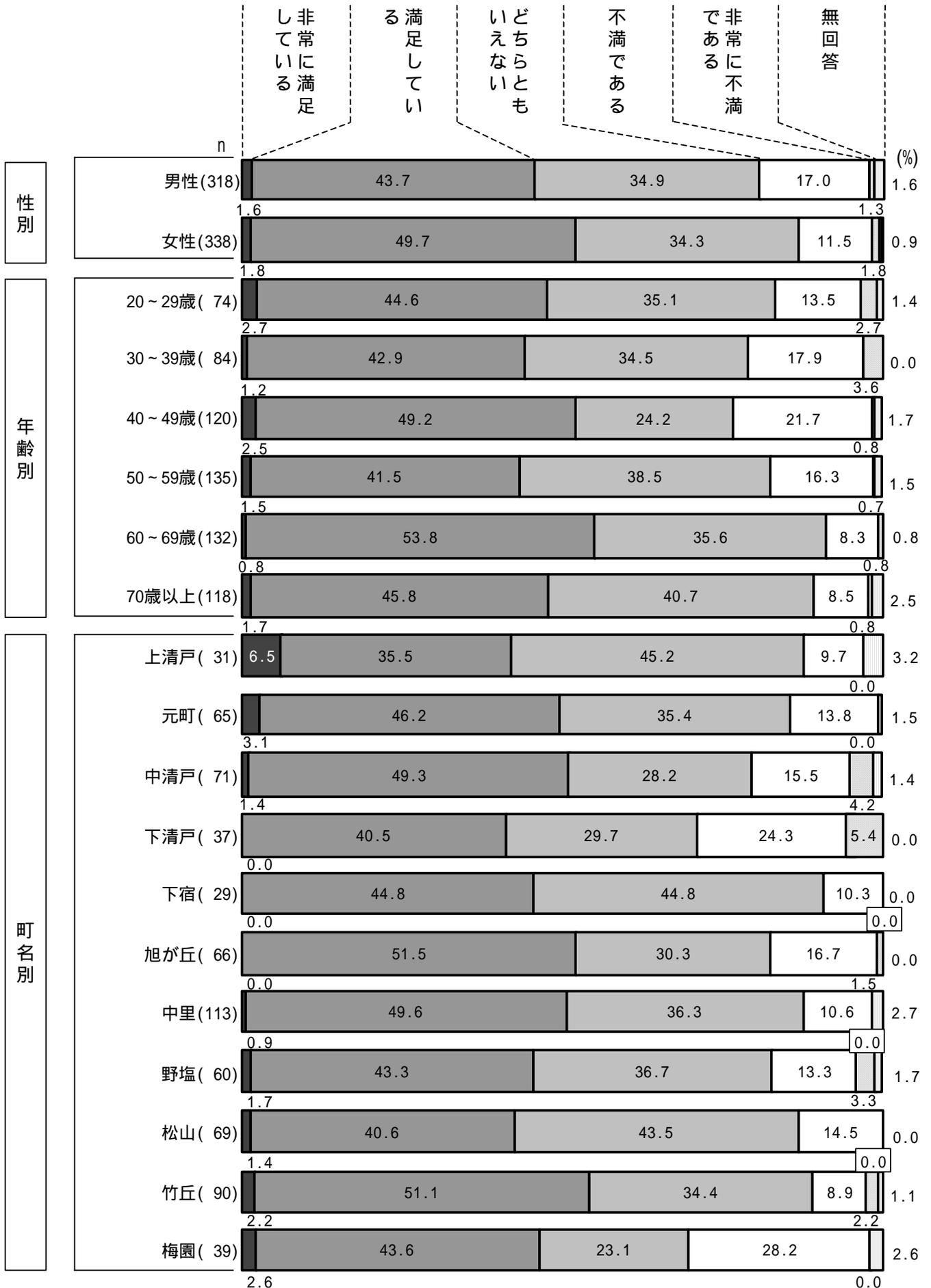
【性別・年齢別・町名別】

性別では、女性の方が男性よりも『満足派』が6.2ポイント高くなっている。逆に、女性よりも男性の方が『不満足派』が5.0ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、『満足派』は60歳代が54.6%で最も高く、次いで40歳代が51.7%が続いている。逆に、『不満足派』は40歳代が22.5%で最も高く、次いで30歳代が21.5%が続いている。他方、70歳以上及び60歳代では『不満足派』がそれぞれ9.3%、9.1%と低くなっている。

町名別では、『満足派』は竹丘が53.3%と最も高く、旭が丘が51.5%でそれに続く。逆に、『不満足派』は、下清戸が29.7%と最も高く、梅園が28.2%が続いている。

< 図 2 - 1 5 : 性別・年齢別・町名別 >



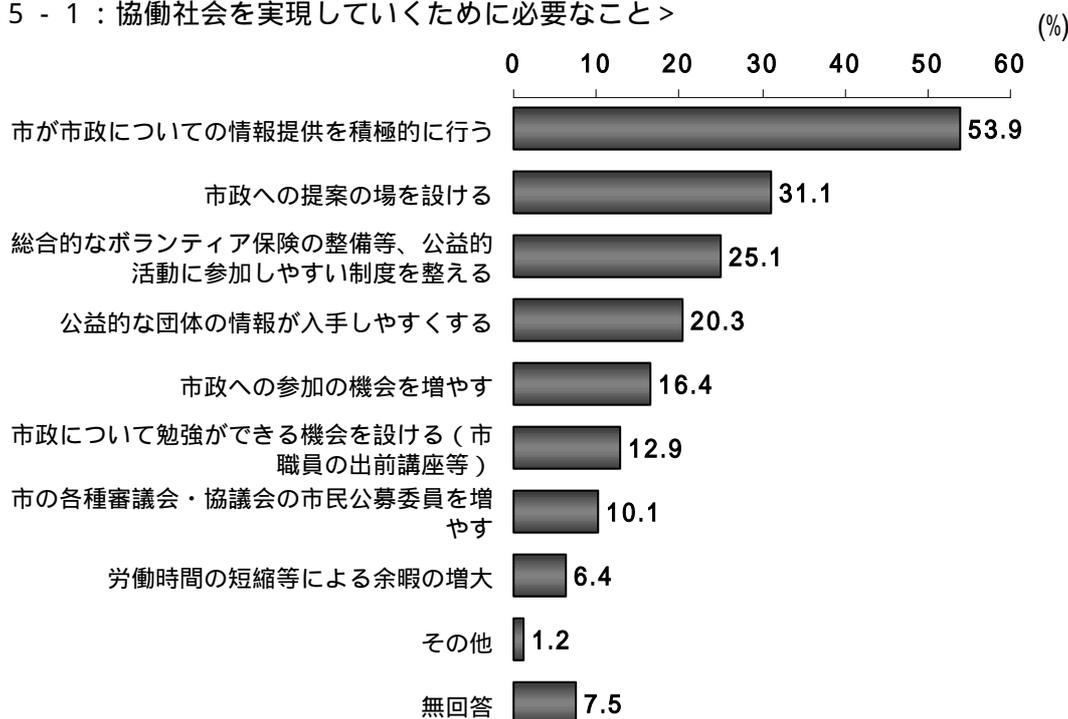
5 市民参画

(1) 協働社会を実現していくために必要なこと

問7 市では「清瀬市まちづくり基本条例」を平成14年9月に制定しました。この条例の市民参画・協働のまちづくりを仕組みとして保障するための条項の中には、常設機関として設置された「まちづくり委員会」の規定があり、これまでに市民から寄せられた提案の中から3つの提案が実現しました。今後、協働社会を実現していくために必要と思われるものを、次の中から2つまでお答えください。

{ n = 684 }

< 図5-1：協働社会を実現していくために必要なこと >



【全体】

協働社会を実現していくために必要なこととしては、「市が市政についての情報提供を積極的に行う」が53.9%と最も高く、「市政への提案の場を設ける」が31.1%、「総合的なボランティア保険の整備等、公益的活動に参加しやすい制度を整える」が25.1%、「公益的な団体の情報が入手しやすくなる」が20.3%と続いている。

【性別・年齢別・就業形態別】

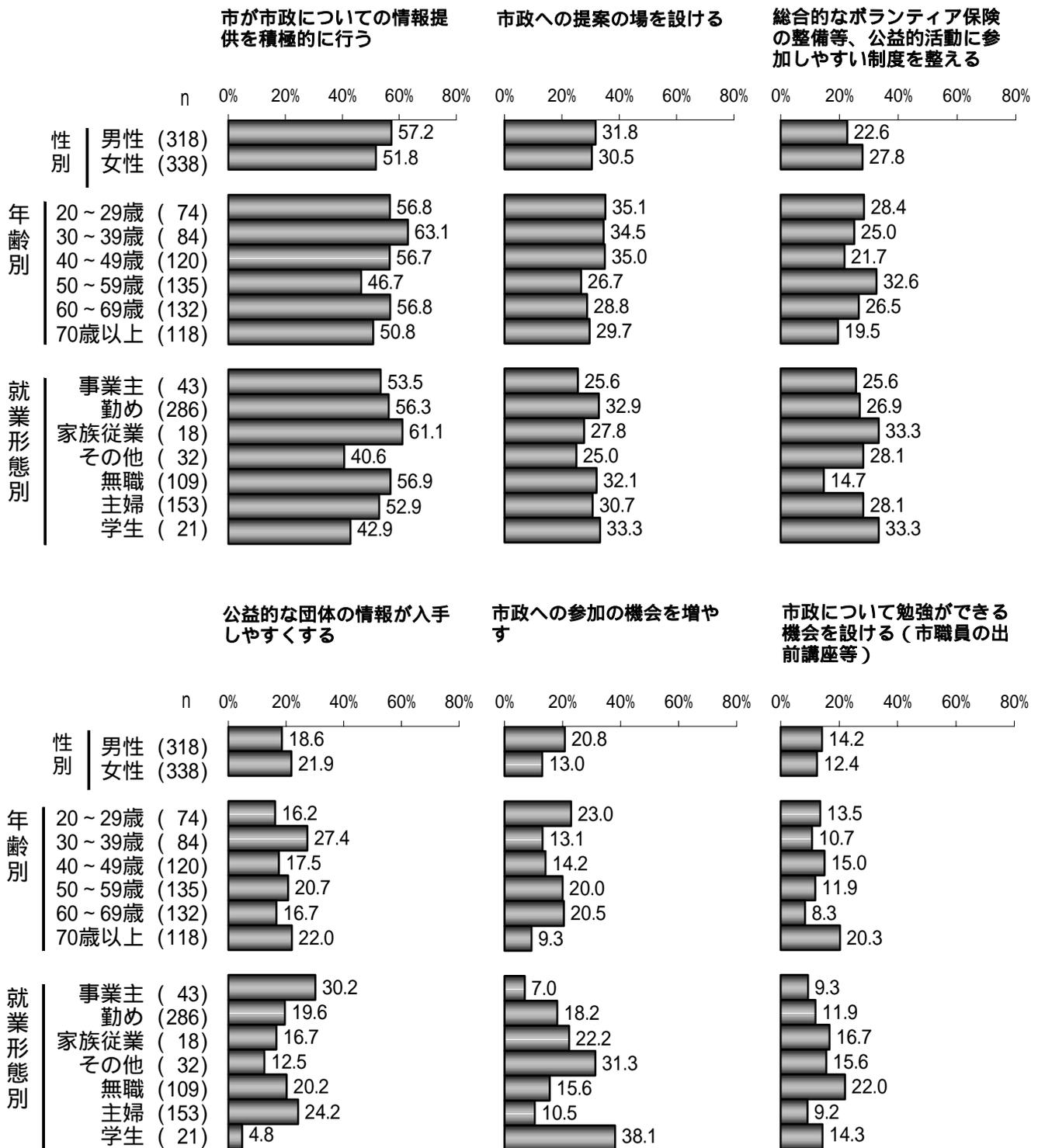
性別で見ると、「市政への参加の機会を増やす」が男性(20.8%)、女性(13.0%)となっており、男性が7.8ポイント上回っている。他方、「総合的なボランティア保険の整備等、公益的活動に参加しやすい制度を整える」は女性(27.8%)、男性(22.6%)となっており、女性が5.2ポイント上回っている。

年齢別では、「市が市政についての情報提供を積極的に行う」はいずれの年齢層においても数値が高いが、30歳代が最も高く63.1%となっている。また、「総合的なボランティア保険の整備等、

「公益的活動に参加しやすい制度を整える」は50歳代が32.6%と他の年齢層と比較して高くなっている。

就業形態別でみると、「市が市政についての情報提供を積極的に行う」はいずれの就業形態においても数値が高いが、家族従業が最も高く61.1%となっている。また、「公益的な団体の情報が入手しやすくする」は事業主が30.2%、「市政への参加の機会を増やす」は学生が38.1%と他の就業形態より高くなっている。

< 図5 - 2 : 性別・年齢別・就業形態別：上位6項目 >

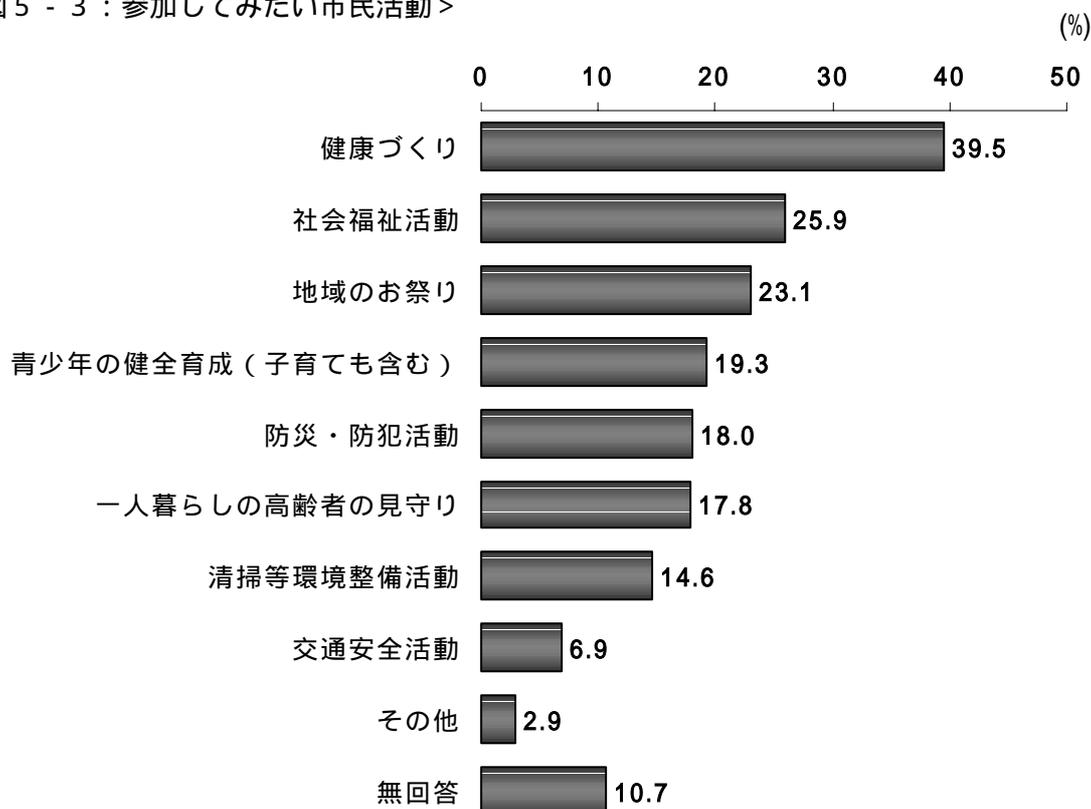


(2) 参加してみたい市民活動

問8 あなたが、参加してみたいと思う市民活動があれば次の中から選んで2つまでお答えください。

{ n = 684 }

< 図5 - 3 : 参加してみたい市民活動 >



【全体】

参加してみたいと思う市民活動は、「健康づくり」が 39.5%と最も高く、「社会福祉活動」が 25.9%、「地域のお祭り」が 23.1%と続いている。

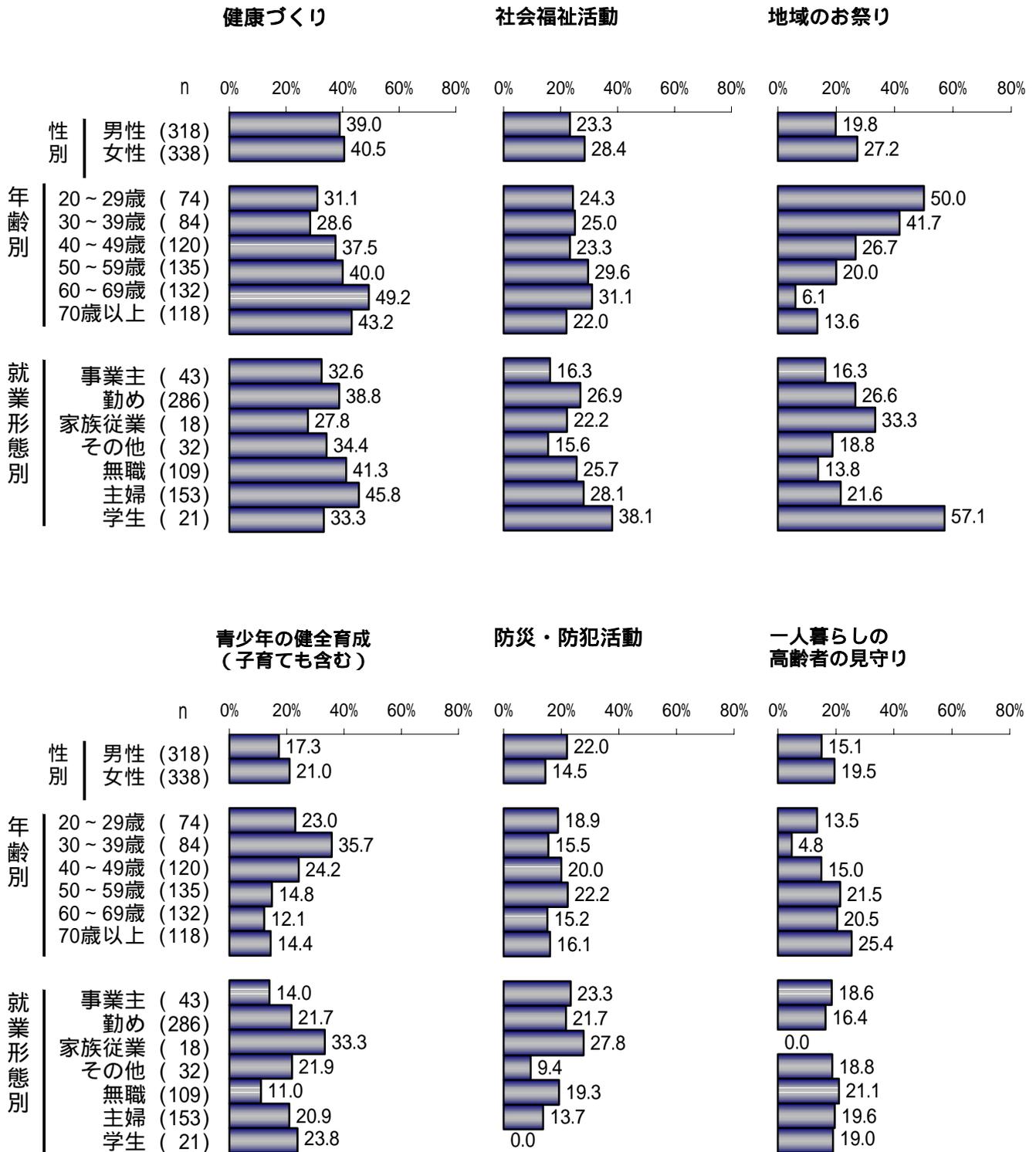
【性別・年齢別・就業形態別】

性別で見ると、「防災・防犯活動」が男性(22.0%)、女性(14.5%)となっており、男性が7.5ポイント上回っている。他方、「地域のお祭り」が女性(27.2%)、男性(19.8%)となっており、女性が7.4ポイント上回っている。

年齢別で見ると、「健康づくり」は60歳代で最も高く49.2%となっている。また、「地域のお祭り」は20歳代、30歳代がそれぞれ50.0%、41.7%、「青少年の健全育成(子育ても含む)」は30歳代が35.7%と他の年齢層と比較して高くなっている。

就業形態別で見ると、「健康づくり」はいずれの就業形態においても数値が高いが、主婦が最も高く45.8%となっている。また、「地域のお祭り」および「社会福祉活動」は学生が他の就業形態と比較して高く、それぞれ57.1%、38.1%となっている。

< 図5 - 4 : 性別・年齢別・就業形態別 : 上位6項目 >

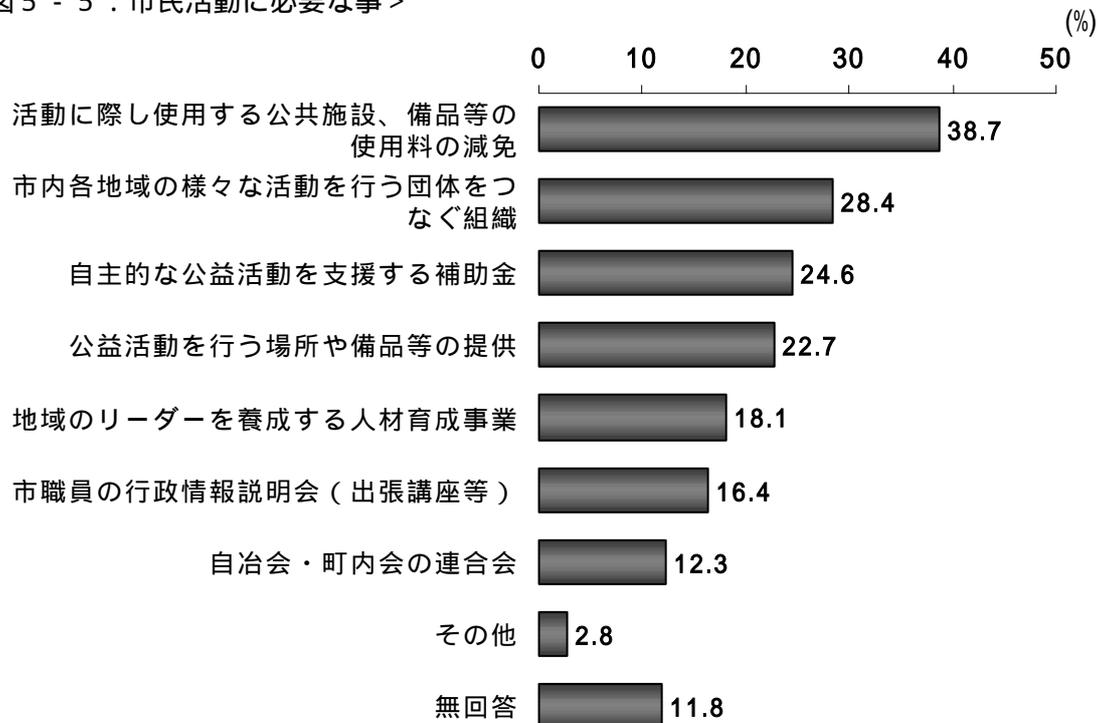


(3) 市民活動に必要な事

問9 市民活動を行うにあたり、あなたがあれば良いと思うもの、または行政にやってほしいと思うものを、次の中から2つまでお答えください。

[n = 684]

< 図5 - 5 : 市民活動に必要な事 >



【全体】

市民活動を行うにあたりあれば良いと思うもの、または行政にやってほしいと思うことは、「活動に際し使用する公共施設、備品等の使用料の減免」が38.7%と最も高く、「市内各地域の様々な活動を行う団体をつなぐ組織」が28.4%、「自主的な公益活動を支援する補助金」が24.6%、「公益活動を行う場所や備品等の提供」が22.7%と続いている。

【性別・年齢別・就業形態別】

性別で見ると、「地域のリーダーを養成する人材育成事業」が男性(21.4%)、女性(15.1%)となっており、男性が6.3ポイント上回っている。他方、「活動に際し使用する公共施設、備品等の使用料の減免」は女性(44.1%)、男性(33.3%)となっており、女性が10.8ポイント上回っている。

年齢別で見ると、「活動に際し使用する公共施設、備品等の使用料の減免」は20歳代、30歳代が他の年齢層と比較して高く、それぞれ51.4%、50.0%となっている。また、「公益活動を行う場所や備品等の提供」は20歳代が39.2%と最も高く、年齢が上がるほど漸減する傾向がある。

就業形態別でみると、「活動に際し使用する公共施設、備品等の使用料の減免」はいずれの就業形態においても数値が高いが、主婦が最も高く 43.1%となっている。また、「公益活動を行う場所や備品等の提供」は学生が 47.6%、「市職員の行政情報説明会（出張講座等）」は無職が 29.4%と他の就業形態より高くなっている。

< 図 5 - 6 : 性別・年齢別・就業形態別：上位 6 項目 >

